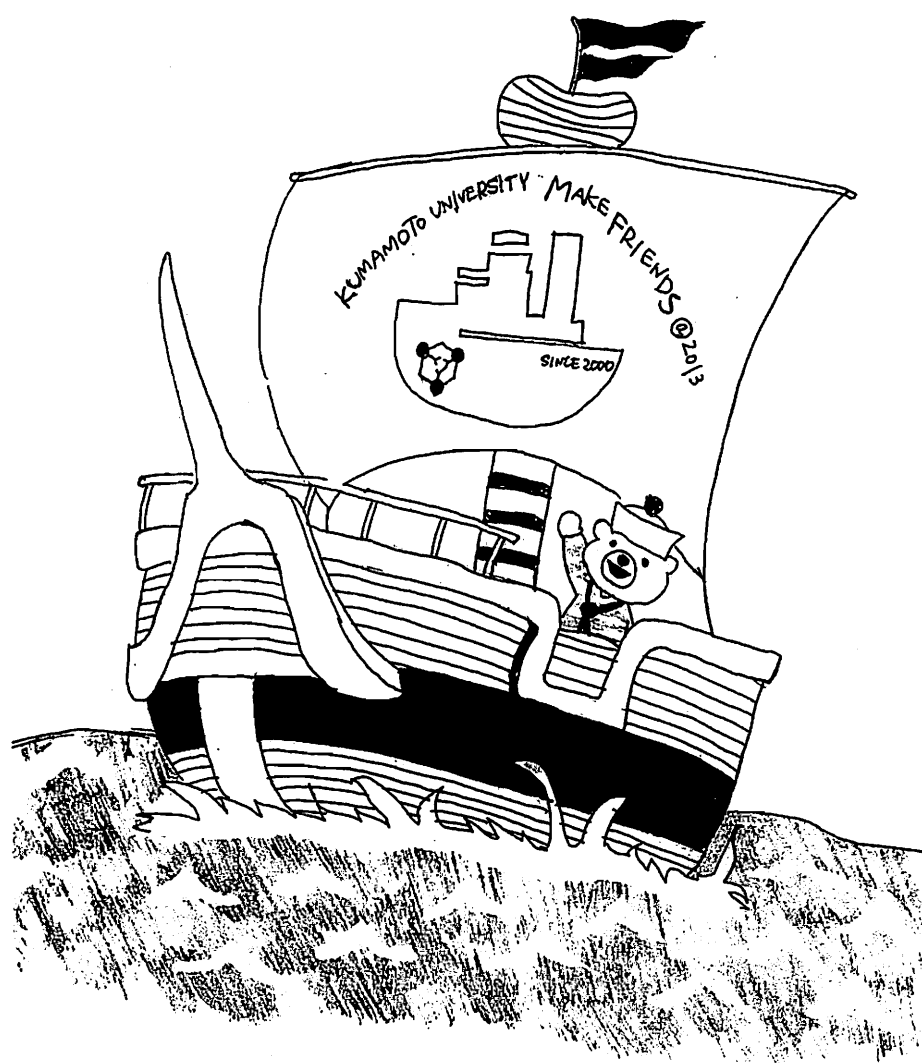


2013 (平成25) 年度
熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書



熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター

2014 (平成26) 年 3 月

目 次

はじめに

- 1 熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 ご挨拶
..... 熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦 1
- 2 熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムについて
..... 教育実践総合センター長 中 川 保 敬 2

I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて 3
- 2 2013（平成25）年度メイクフレンズ活動体系について
..... 熊本大学教育学部2年 藤 山 茉 優 5
- 資料 2013年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 7
- 3 2013年度メイクフレンズ年間活動一覧 9
- 4 2013年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 11
- 5 2013年度活動報告 12
 - (1) メイクフレンズ「中央単発班」活動報告書
 - (2) メイクフレンズ「五福プランナー班」活動報告書
 - (3) メイクフレンズ「五福ホール班」活動報告書
 - (4) メイクフレンズ「大江・託麻単発班」活動報告書
- 6 2013年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項 28

II 分科会の実施報告

- 1 メイクフレンズ学生自主企画分科会 33
- 2 実施計画 34
- 3 合同分科会の事後アンケート結果 58

III 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 今 Bon voyage！（13年度） 教育実践総合センター教授 吉 田 道 雄 73
- 2 平成25年度フレンドシップ事業の感想ーパワーアップしたシンポジウムに参加してー
..... 教育実践総合センター教授 高 原 朗 子 74
- 3 「子ども理解」とは、どういうことなのか？
..... 教育実践総合センター准教授 中 山 玄 三 75
- 4 熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムに思う
..... 教育実践総合センター特任教授 田 中 耕 治 76

熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 ご挨拶

熊本大学教育学部長 登田 龍彦



皆様、おはようございます。教育学部長の登田でございます。平成25年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、熊本県・熊本市の社会教育機関の先生方におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして、誠に有り難うございます。

本事業は、教師を目指す学生が、子どもたちとのふれあいを通して、子どもたちの気持ちや行動を理解し、豊かなコミュニケーション力と実践的指導力を身につけることを目的とする教育的活動です。本活動に参加している学生諸君総てに対して、敬意を表したいと思えます。中央教育

審議会から平成24年8月28日に答申された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で謳われております教員に求められる資質能力の一つに、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」があります。これまで本学部が重視してきた体験型活動であるフレンドシップ事業は、正にこの教育体験そのものであり、「総合的な人間力」の修得において大きな役割を担っています。

本事業を支えるものとして、1年生を含めた約70名のサークル「Make Friends」が存在し、4班に分かれて熊本市内の中央、五福、託麻、大江の4公民館の社会教育施設や熊本県生涯学習推進センター、熊本市役所生涯学習推進課と連携・協力しながら、子どもが参加する行事等の企画・運営を積極的に行っておられると聞いております。午前中にあるその活動報告が楽しみです。また、午後の分科会は、「再構築」をテーマにして、討議がなされるそうですが、活発なものになることを期待しております。今後益々、地域の教育機関と連携を強化させて頂きながら、本事業を深化させて行く必要があると思われまます。

本日は、公民館から江川先生、中川先生、魚住先生、作本先生、連携協力機関から熊本県生涯学習推進センター審議員の野尻先生と熊本市役所生涯学習推進課社会教育主事（主幹）の上島先生に、今年度の活動に対するコメントを頂戴することになっております。また、本日は、熊本県教育庁社会教育課長の福澤光祐先生に特別講演をして頂くことになっております。心より感謝申し上げます。

最後に、本日まで出席頂きました先生方には、フレンドシップ事業の発展のために、これまでご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼を申し上げ、併せて今後とも変らぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日のシンポジウム・分科会が有意義なものになり、学生諸君の有意義な活動が益々発展することを祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムについて

教育実践総合センター長 中川 保 敬



平成25年度の熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムは、3月3日に教育学部3-B教室に於いて開催いたしました。本年度もメイクフレンズの活動実績報告を7名の学生の皆さんから、「子ども理解と向き合う」「みんなでメイフレ」の目標のもと多くの行事を企画・運営し、貴重な活動を通して様々な人とのかかわりの中で疑問や解決への糸口を学んだことを報告していただきました。その発表後は、熊本市内4つの公民館社会教育主事の先生方から実際の班活動での努力ぶりを事例を挙げて示唆に富んだ振り返りコメントをいただき、今後の活動の方向性を示していただきました。また、連携協力機関として熊本県生涯学習推進センター及び熊本市生涯学習推進課の先生より生涯学習の視点から学生たちへの暖かい支援の言葉と指導のポイントを示唆いただきました。

また、特別講演として、熊本県教育庁社会教育課長の福澤光祐課長より学校を核とした「地域の寺子屋」推進事業について熱心にお話いただきました。その中で全国学力調査とボランティア活動の関係について、思考力や判断力、表現力などを高まることをデータ結果にもとづいて説明いただきました。

このフレンドシップ事業を通じた様々な体験は、子どもたちを育て、学生たちの学びを育てるすばらしい活動の場であることを実感しました。このフレンドシップ事業の今後の課題とすれば、メイクフレンズの皆さんの素晴らしい活動を更に大きく発展させていくためには、教育学部の多くの学生に参加をしていただき、体験に基づく学びの重要性を知っていただきたいと思います。さらに、地域における社会教育の現状を知る機会としても貴重な機会ではないかと思います。

さらに、熊本県の社会教育課長から直接の講演をいただくことでの最新情報や熊本県が取り組んでいる推進内容も理解できる貴重な機会となり、教育学部の学生にとって、学校現場の理解は不可欠ではありますが、地域で行われている教育活動や、児童生徒の活動を知ることも重要なことだと考えます。このフレンドシップ事業シンポジウムは、このことを学ぶ良い機会となると考えますので次年度以降の取り組む課題としたいと思います。

最後になりましたが、本年度も一年間を通してご支援戴きました関係機関の多くの先生方に、心より感謝とお礼申し上げます。

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、中央公民館、五福公民館、託麻公民館、大江公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。



2013（平成25）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 藤山 茉 優

本年度は熊本市の4つの公民館と提携させていただき、4班構成で活動を行ってきました。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画・運営をするプランナー班、学生が主体となって活動を企画・運営する単発班、ホール班として活動を行いました。

「フレンドシップ事業」の「シップ(船)」に由来しているメイクフレンズでは、所属している学生を「船員(クルー)」、幹部を「船長」「副船長」と呼び、シンボルには「船」が用いられます。現在メイクフレンズには院生も含め68名の学生が所属しており、教育学部以外にも少数ではありますが文学部や「学部」の学生もいます。本年度は方針に「“子ども理解”と向き合う」「みんなでメイフレ」の二つを掲げました。メイクフレンズという船に乗る船員一人ひとりが、「子ども理解」という共通の目的に向かってオールを漕ぐ様子をイメージし、「みんなでメイフレ」という方針を立てました。しかし、同じ船に乗っていてもその人自身の力量や価値観、メイクフレンズに対する思いはそれぞれ異なります。それゆえ話し合いがスムーズに進まないことや意見がぶつかり合うことは、避けられないことです。その中で、この「みんなで」とはどのようなことを意味しているのでしょうか。また、私たちメイクフレンズが目指す「子ども理解」とは、どういうことなのでしょうか。メイクフレンズでの貴重な活動を通して、また先輩や後輩、仲間など様々な人との関わりの中で、これらの疑問に対する答えを模索していきたいです。

メイクフレンズは来年度で15年目を迎えます。本年度も熊本城キャンプや生涯学習フェスティバル、ふるまちロマンフェスタ、子ども会でのレクリエーションの実施など、外部の方々から多くの依頼を頂きました。公民館以外の場所で「メイクフレンズ」として、活動をする場が増えているということは大変ありがたいことです。様々な人と関わることでつくり上げていくこの活動と組織を誇りに思うとともに、メイクフレンズのさらなる発展・充実のため、来年度も新たな挑戦をしていきます。

最後になりましたが、本年度も公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして吉田先生、田中先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援をいただきました。私たち学生は多くの方々に支えられて、メイクフレンズという場で貴重な経験ができています。心から感謝申し上げます。また、吉田先生と田中先生にかわり来年度より顧問を引き受けてくださる中山先生と高原先生、これからどうぞよろしく願いいたします。



「“子ども理解”と向き合う」 「みんなでメイフレ」

○方針とは

私たち2学年は方針とは、企画・実践・振り返りにおいて、みんなで大事にしたいことと捉えました。その上で、現状や理想を話し合っていく中で、メイクフレンズの目的である「子ども理解」と学生間に関する課題の二つが挙がりました。そこで、その二つを方針の軸として考えることにしました。

○「子ども理解」と向き合う

この方針を立てる上で、「メイクフレンズ」というサークルが、「子ども理解」を目的とした集団であるということを再確認しました。「子ども理解」は、船員がメイクフレンズでの活動（企画・実践・振り返り）を通し、経験や体験を重ねることで、深めていくものです。そして、それらは人それぞれ異なるものであるという結論に至りました。しかし、「子ども理解」という言葉をどこまで意識し活動に臨んでいるのか、疑問に感じました。

そこで、改めて「子ども理解」について考える機会を作るために、方針として提示します。これを機に船員一人一人が、企画・実践・振り返りの中で「子ども理解」について考えてほしいと思います。

○「みんなでメイフレ」

これは企画・実践・振り返りを行う上で、学生間で大切にしたいことです。「みんなでメイフレ」の「みんなで」は現在メイクフレンズに所属している船員のことを指しており①メイクフレンズの一員（子ども理解を目的としたサークルであり、子どもを預かり実践に臨む）としての自覚、②一人ひとりの船員が持っているやる気、頑張りたいという気持ちを大切にしてほしいと思います。そして、①②を持った船員が集まることで、この「みんなでメイフレ」を進めていくためには、船員としてどのようなことが出来るのだろうか。我々2学年の間で、企画・実践・振り返りをそれぞれの場面にあてはめて考えてみました。

〈企画〉

- ・自分で考える→自分の意見を発信・他の人の意見を聞く→視野が広がる→再度自分で考える
- ・班のみんなで仕事を分担し、任された仕事をこなす

〈実践〉

- ・タイムテーブルを把握する→活動に臨む→有意義な活動になる
- ・任された仕事に責任をもつ

〈ふりかえり〉

- ・個人で振り返る→班で振り返る→全体で共有する

ここであげたのは、2学年が考えた一例に過ぎません。ぜひ船員の一人ひとりに「みんなでメイフレ」を進めていく上で、自分にはどのようなことが出来るのか、ということを考えてもらいたいと思います。

2013年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	五福ホール	大江・託麻(お買いもの)	中央	五福プランナー
6	1 (土)			熊本一受けたい授業 ～みんなの「？」を解き明かせ～	
	2 (日)				開講式
6	8 (土)	おえかき中！ ～失われた色を取り戻せ！～			
	15 (土)				
	16 (日)		はじめのおおかいもの ～ミラクル☆カラフル井のまき～		プランナー合宿
	29 (土)				プランナー会議①
7	13 (土)	みんなできつろう！Myプラネタ リウム			プランナー会議②
	27 (土)				プランナー会議③
8	9 (金)				プレ
	10 (土)	よってらっしゃい！みてらっしゃ い！これが五福の夏祭り～！			
	11 (日)			熊本一熱いDay Camp in とよの	
	18 (日)		太陽の下で遊べ遊べ遊べ！戦闘中 他		
	20 (火)				行こうよ豊野！わく☆ドキ夏キャ ンプ
9	31 (土)				プランナー会議④ (台風のため中止)
	14 (土)	元気ハツラツ～？五福大運動会			プランナー会議⑤
10	28 (土)				プランナー会議⑥
	12 (土)	わくわくふわふわしゃぼん玉きら り☆			プレ
	19 (日)				きなっせ！！五福の秋祭り ～屋台ばやるったい～

月	日	五福ホール	大江・託麻(お買いもの)	中央	五福プラザナー
11	2 (土)				プランナー会議⑦
	16 (土)				プランナー会議⑧
	30 (土)			巨大な国の大冒険 ～巨大な国へレッツゴー！～	プランナー会議⑨
12	1 (日)		はじめてのおかいもの ～みんなでお米を愛身させよう！～		
	14 (土)	手づくクリスマス ～サンタさんをおもてなし～			プレ
	21 (土)				つくって！迷って！ゾットして！！ 五福のクリスマス特大スペシャル
1	11 (土)	走れ！探せ！みんなで巨大カルタ			
	19 (日)				閉講式
2	8 (土)	走ってにげてつかまえて！五福おに ごっこ大作戦			
	9 (日)		大江ドミノ大作戦～みんなで町を つくらんと！～		
	23 (日)			はしゃいで、遊んで、、寒さを吹っ 飛ばせ！！あんずの丘へレッツゴー！	

2013年度 メイクフレンズ外部依頼による活動活動一覧

月	日	依頼主	活動内容	活動場所
4	7	尾ノ上小校区子ども会	新入生歓迎会	灰塚集会所
	7	長嶺小校区子ども会	新入生歓迎会	長嶺小集会所
	14	託麻南8町内子ども会	新入生歓迎会	託麻南小学校体育館
	21	秋津4町内子ども会	新入生歓迎会	秋津4町内公園
	21	託麻東小校区子ども会	新入生歓迎会	託麻東地域公民館
5	5	黒髪18町内子ども会	新入生歓迎会	竜南中学校体育館
	11	砂取小1町内子ども会	新入生歓迎会	砂取小学校体育館
	12	画図小学校区 13町内子ども会	新入生歓迎会	画図小学校体育館
	12	秋津小校区子ども会	新入生歓迎会	秋津第一公民館
	12	出水小校区子ども会	新入生歓迎会	市営出水団地集会所
	18	弓削4町内子ども会	新入生歓迎会	弓削小学校体育館
	19	砂取小校区子ども会	新入生歓迎会	熊本テルサー階 ビジネスセンター
	19	田迎西2町内子ども会	お見知り会	田迎公民館
6	8~9	託麻公民館	東区子どもチャレンジ 公民館プランナー合宿	豊野少年自然の家
7	28	東部公民館	東部子どもフェスティバル	東部公民館
8	7	7託麻公民館	干潟の生き物と遊ぼう In 住吉	県水産研究センター
	22~23	託麻公民館	東区子どもチャレンジ 公民館プランナーキャンプ	あしきた青少年の家
	21~23 26~27	合志市教育委員会	合志市小中学校サマースクール	合志市小中学校
9	14	壺川小おやじの会	レクリエーション	壺川小学校体育館
	21~23	熊本市キャンプ協会	あそ大観峰チャレンジキャンプ	あそ教育キャンプ場
10	5	弓削小学校PTA	レクリエーション	弓削小学校体育館
	20	託麻公民館	東区子どもチャレンジ 公民館プランナー活動	託麻公民館
11	2~3	金峰山少年自然の家	キャンプリーダー	金峰山少年自然の家
	9	日吉小学校 2年生学年委員	レクリエーション	日吉東小学校体育館
	10	菊池少年自然の家	菊少スマイルデー	菊池少年自然の家
	9~10	熊本市青少年育成課	熊本城子どもわくわく体験学習	熊本城
12	8	弓削3町内子ども会	レクリエーション	弓削小学校体育館
	14	出水南校区 1町内子ども会	クリスマス会	出水南小学校体育館
	15	託麻公民館	託麻プランナー活動	託麻公民館
	22	東部公民館	イブイブバス旅行	福岡県青少年科学館
1	26	託麻公民館	東区子どもチャレンジ 公民館プランナー活動	福岡県サンプルRIKI

2013年度 中央班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 工藤 友徳

前期中央班では、6月に「熊本一受けたい授業!!～みんなの「？」を解き明かせ～」、8月に「熊本一熱い DayCamp～in とよの～」の二つの活動を企画した。

6月の活動は、小学4～6年生を対象に、「新たな発見をしてもらいたい、そして起きた現象に感動し、発見することを楽しいと感じてほしい」という願いのもと、ドライアイスやシャボン玉、蒸気を使う化学実験を行った。活動中は、「なんでこんなのできるの?」「不思議～」といった声が聞こえたり、前で実験をする際には、子どもたちが実験装置にぐっと近寄ってくる姿が見れたりし、実験中に起こる様々な現象に興味・関心を持っていることを感じる事ができた。この活動を通して、子どもの持っている「知りたい」という気持ちの強さを感じることができたので、今後もその気持ちを引き出すような手段を考えていくことが必要だと思う。

8月の活動は、豊野少年自然の家に行き、小学3～6年生を対象に、「日頃味わえない大自然の中で、班の仲間と協力しながら活動してもらいたい」という願いのもとカレー作りとウォークラリーを企画した。活動中は、自然の中で伸び伸びと活動に取り組む姿や、子ども同士で役割を分担し、カレーを作り上げようとする姿が見られた。当日は非常に暑く、活動後の子どもたちは、汗をかいてくたくたになっていたが、達成感に満ち、満足げな表情をしていた。この活動を通して、子どもの自然の中で楽しく遊ぶ姿や助け合いながら仲を深めていく姿を見ることができ、子どもをじっくりと見つめることのできる良い機会になったと思う。

前期を振り返って、企画段階と当日の子ども姿に差が多く見られた。この経験を踏まえ、子どもの反応やその対応を考えるという子ども理解をさらに深め、子どもへの想いを大切にしていきたい。



2013年度 中央班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

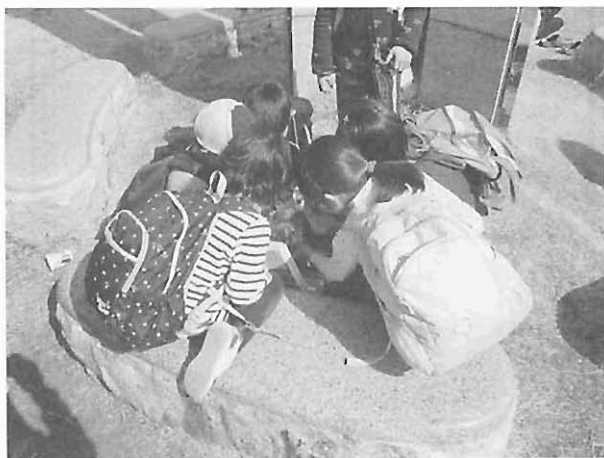
班長 2年 工藤友徳

後期中央班では、11月に「巨大な国の大冒険～君が主役だレッツゴー！～」、2月に「はしゃいで、遊んで、寒さを吹っ飛ばせ～あんずの丘にレッツゴー！～」の二つの活動を企画した。

11月は小学1～3年生を対象に、巨大なトランプや巨大な折り紙を用い、「達成感と感動を味わってほしい」という願いのもと活動を行った。子どもの身長と同じ大きさのトランプを使うことで、子どもたちは普段味わうことのできない巨大な世界に入り込み、活動を楽しんでいるようだった。また、1m×1m～4m×4mの紙を使って巨大な折り紙の世界を作り上げた際には、皆で協力して折り紙を折ったことに対する達成感と感動で満ち溢れていた。この活動を通して、子どもたちに心から楽しい活動だったと思ってもらうためには、子どものことを考えて企画することはもちろんのこと、物品の準備や当日の運営面にも気を配ることが必要であると学んだ。

2月は小学1～6年生を対象に、あんずの丘へ行き、野外活動を行った。「参加してくれた子どもたちに仲良くなってほしい」という願いをもって活動を行ったが、活動中は、宝さがしを通して自然の中で伸び伸びと遊ぶ姿や、同じ班の子同士で会話し、一緒に遊ぶ姿が見られた。特に印象に残ったのは、行きのバスの中で全く会話していなかった2人が、一日の活動を通して仲良くなり、帰りのバスの中で「〇〇ちゃんのおかげでミッションをクリアできたんだよー！」といった声を聞くことができたことである。この様子から、「子どもたちに仲良くなってほしい」という願いは達成されたと感じた。一人一人性格の異なる子どもたちを短時間で仲良くすることは難しかったが、多くの支援方法を考えて臨めたことがこの結果につながったのだと思う。

後期を振り返って、子どもを理解すること、班を運営していくこと、そして活動を作りあげていくことに関して、前期の自分から大きく成長した。この一年間の経験を踏まえ、今後さらに多くの経験をし、自分を成長させていきたい。



中央単発班 ～一年間の活動報告～

工藤 友徳

活動名

- 6月
「熊本一受けたい授業～みんなの『?』を解き明かせ～」
- 8月
「熊本一熱いDay Camp in とよの」
- 11月
「巨大な国の大冒険～君が主役だレッツゴー!～」
- 2月
「はしゃいで、遊んで、寒さを吹っ飛ばせ
～あんのの丘へレッツゴー!～」

熊本一受けたい授業! ～みんなの「?」を解き明かせ～

【概要】

- ・小学4～6年生を対象
- ・ドライアイスやシャボン玉、蒸気の力を使う化学実験

【目的】

「新たな発見をして感動を得よう。」



熊本一熱いDAY CAMP IN とよの

【概要】

- ・小学3～6年生を対象
- ・豊野少年自然の家で、カレー作りとウォークラリー

【目的】

「自然を満喫する。みんなで協力してカレーを作る。」



巨大な国の大冒険 ～君が主役だレッツゴー!～

【概要】

- ・小学1～3年生を対象
- ・巨大な王国に迷い込んだという設定のもと、子どもの身長と同じくらいの大きさのトランプや折り紙を用いた活動を行った。

【目的】

「非日常的な体験をし、巨大な感動を味わおう。」





はしゃいで、遊んで、寒さをふっとばせ
～あんずの丘へレッツゴー！～

【概要】

- ・小学1～6年生を対象に行った。
- ・あんずの丘で、宝の暗号を持ったままさらわれた学生を救いだし、その後あんずの丘に眠る宝を探し出すという活動を行った。

【目的】

「体を動かす中で交流し、仲良くなろう。」

【目的】

「体を動かす中で交流し、仲良くなろう」について

- ・仲良しレベルを設定し、段階的にクリアできるようにした。
- <開会式後>
班内でお互いの名前と顔を一致する。
- <パスレク>
1人でもよいのでおしゃべり相手ができ、緊張や不安が取り除かれる。
- <午前活動>
交流の輪が広がり、班のつながりができる。
- <午後活動>
班の絆が深まり、学生の介入なしに子ども同士の会話が見られる。

<開会式後>

班内でお互いの名前と顔を一致する。

- ・相手の名前を言いながら、ボールをパスするレクをした。



<午前活動>

交流の輪が広がり、班のつながりができる。

- ・2人以上でなければできないゲームをした。



<午後活動>

班の絆が深まり、学生の介入なしに子ども同士の会話が見られる。

- ・班で協力しないとクリアできないゲームをいくつか行った。
- ・子どもたちが団結するような設定を考えた。



2013年度 五福プランナー班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 坂崎 優平

前期プランナー班では、小学3～6年生のプランナー15名と一緒に、6月は「開講式」「プランナー合宿」、8月に「行こうよ豊野わくドキ夏キャンプ」を行った。私たちは「自信」と「つながり」の2つを柱として活動を行ってきた。

「開講式」ではプランナーの子どもたちと初めて対面した。同じ小学校の友達同士で来ている子どもも多く、明るい雰囲気で行うことが出来た。

「プランナー合宿」は阿蘇青少年自然の家に行き、プランナー会議やレクレーションを行った。プランナー会議では、実際に会議のことを知ってもらうために、プランナーのチーム名について話し合った。初めての会議であったが、プランナー同士でたくさんの言葉を挙げ、自分たちで意見を交わしながら「元気いっぱいSmileチーム」というプランナーの思いが詰まったチーム名が完成した。またレクリエーションや、ナイトハイク、旗づくりなどを行い、楽しい雰囲気の中で、プランナー同士が関わるきっかけを作った。その結果、楽しく会話する姿や一緒に遊ぶ姿を見ることが出来た。合宿を通して、プランナーのことを知ることができ、また会議の様子やプランナー同士が関わっている様子から、団結して活動を作り上げていくことをとても楽しみに感じた。

「行こうよ豊野 わくドキ夏キャンプ」ではプランナーと15名の参加者と共に、豊野少年自然の家に行った。プランナー企画では「王様ドッジボール」「生き残り鬼」「障害物リレー」を行った。初めての企画となったが、プランナーが会議の時からしっかりと話し合いを重ねてきたこともあって、当日の企画をしっかりと行ってくれた。また、プランナーは今回の活動を通して、企画・活動という流れを知ることが出来た。夏のプランナーの取り組みを見て学生としては、さらにプランナーにとって充実した企画・活動になるような準備が必要であると感じた。

プランナーの子どもたちと時間を共有するにつれ、特にプランナー同士のつながりの広がりを感じた半期だった。これからは、つながりを大事にしながらも、自信にもつなげていけるように努めていきたいと思う。



2013年度 五福プランナー班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 坂本 悠

後期五福プランナー班では、10月に「きなっせ！五福の秋祭り～屋台ばやるったい！！～」12月に「つくって！迷って！ゾットして！！五福のクリスマス特大スペシャル」を行った。

秋の活動では、「ダンボールホッケー」「学生探し射的」「魚釣り」を企画した。この活動の目的は、「プランナーのつながりを強くすること」「参加者が楽しめる企画をすること」とした。最初は新しい企画班で緊張しているプランナーもいたが、会議を重ねていく中で、相手のいいところを褒めたり、「もっとこうしたほうがいいよ」と提案ができるようになったりと、徐々に距離が縮まっていったように思える。活動当日は、呼び込み係として大きな声で宣伝する、参加者に寄り添って説明するなど一生懸命な姿や、活動後、満足そうに大の字で倒れこむ姿を見ることができた。また、プランナーが自主的に参加者の前へ出てお礼をいう姿が見られた。これは予定にはなかったことで、改めてプランナーの凄さを実感し、嬉しく思った。その反面、これからこの子たちが更に成長するためにはどうサポートしていくべきなのかを考えさせられる場面であった。

冬の活動では、「お化け屋敷」「巨大迷路」「ケーキ作り」を企画した。この活動の目的は、秋の目的に「自分のやりたいことを企画すること」を加えたものとした。プランナーはこだわりを持って会議で意見を交わしており、秋の活動以上に参加者のことを考えた意見が出ていた。これまでの中で最も楽しそうに会議に臨んでいたように思える。活動当日は、自分たちの企画に精一杯取り組み、アドリブを入れて企画を盛り上げてくれたり、その姿を絶賛したりするプランナーの姿を見ることができ嬉しく感じた。子どもたちの持つ力が十分に発揮された、最後にふさわしい活動であった。

一年間通して関わることで、プランナーそれぞれの成長や変化を感じることができた。その一方で、もともと力をもったプランナーであったため、更に成長させていくために学生はどうすればいいか、悩みの多い1年であった。子どもたち一人ひとりのことを考える姿勢をこれからも大切にしていきたい。



平成25年度 五福プランナー班活動報告

<発表者>

前期班長 2年 坂崎優平
後期班長 2年 坂本悠



プランナーとプランナー班の学生について

プランナー

二週間に一回行われるプランナー会議で活動を企画していきます。そして、活動本番のために考えた企画を練習し、活動本番は一般の参加者を呼び活動を行います。

プランナー班の学生

会議、活動に取り組むプランナーのサポートや、学生で決めた年間目標に沿った支援を行っていきます。

プランナーの1年間

開講式
↓
プランナー合宿
↓
会議(3回)
↓
プレ
↓
活動
↓
閉講式



今年度は会議(3回)、プレ、活動という流れを3回行いました。

平成25年度 五福プランナー

○対象学年:小学3年～6年生

6年生 五福(男)6名、五福(女)3名
慶徳(男)3名、城東(男)1名
5年生 春竹(女)2名
3年生 五福(女)1名

計15名

○募集方法

近隣の小学校(五福、春竹、慶徳、一新、向山)、各公民館、公共施設へのチラシ配布

年間計画表

日付	時間	内容
6月2日(日)	10時～12時	開講式
6月15、16日(土、日)	2日間	プランナー合宿
6月29日(土)	10時～12時	会議①
7月13日(土)	10時～12時	会議②
7月27日(土)	10時～12時	会議③
8月9日(金)	10時～15時	プレ
8月20、21日(火、水)	2日間	第1回活動
8月31日(土)	10時～12時	会議④(中止)
9月14日(土)	10時～15時	会議⑤
9月28日(土)	10時～12時	会議⑥
10月12日(土)	10時～15時	プレ
10月19日(土)	10時～15時	第2回活動
11月2日(土)	10時～12時	会議⑦
11月16日(土)	10時～12時	会議⑧
11月30日(土)	10時～12時	会議⑨
12月14日(土)	10時～15時	プレ
12月21日(土)	10時～15時	第3回活動
1月19日(日)	10時～15時	閉講式

五福プランナー年間目標

「つながり」「自信」

この年間目標とプランナーの実態を元に会議・活動の目的を設定し、それに沿った支援を行ってきました。



1年間のプランナーの活動を終えて

1年間の五福プランナーを終えて、プランナー同士のつながりは広がり、深まっているように感じた。また、会議や活動におけるプランナーの様子も変化していた。

しかし、その一方で最初の段階から、学生が設定した年間目標の最終的な姿に近いプランナーが多く、プランナーの実態を踏まえた上での目標設定に悩んだ1年であった。



2013年度 五福ホール班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 大隈 美 央

前期五福ホール班は、活動に来てくれる子どもたちの『居場所づくり』のために「学生と子どもの関わりあい」を大切にすることにした。これを活動における上台として、おえかき、プラネタリウム、夏祭り、運動会の全4回の活動を企画・実施した。その中でも、子どもたちと学生が一緒に楽しむ姿が印象に残った8月の活動について報告したい。

8月の「よってらっしゃい！みてらっしゃい！これが五福の夏祭り～！」では、魚釣り、ボーリング、型抜き、ゴム銃などの全部で9種類の出店を用意し、子どもたちがお客さんになって夏祭りを行った。子どもたちが夏祭りの雰囲気を思う存分に味わい、活動を思い切り楽しんでほしいという目的のもと企画したものであった。子どもたちの楽しみ方は様々で、時間内で全ての出店を回ろうとする子もいれば、ずっと同じ出店で遊ぶ子もいた。また、お店で買ったお面をつけて遊ぶ姿や友達と一緒に回る姿も見られた。高学年の子は型抜きのような難易度の高いところに熱中していた。この活動では、出店の数を増やしたことにより学生が分散したため、学生と子どもが関わる姿がいつもよりも多くみられたことや、子どもたちが飽きることなく時間いっぱい楽しんでいたことが非常に印象的であった。出店を用意するだけでなく、ポイントをためると無料券がもらえるスタンプラリーや子どもたちが学生と同じ法被を着て店員になれるバイト制度などの工夫により、こちらから様々な楽しみ方を提供できたことも子どもたちが楽しめた要因であった。

前期では、学生が提示したものだけでなく、子どもたちに選択の余地を残した自由な雰囲気の活動が多くみられ、のびのびとした子どもたちの様子が見ることができた。その反面、ルールを聞かない子や活動に飽きてしまう子がいる場面も見られたが、学生にとって子どもたちへの対応を考えるよい機会になったと思われる。ホールに来てくれる子どもたちが安心して楽しめるような活動をこれからも作ると共に、その中で多くのことを学び、子ども理解を深めていきたい。



2013年度 五福ホール班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 牟田 早織

後期五福ホール班は、前期からの方針である『居場所づくり』を目指すために、「学生と子どもの関わりあい」に加え、「子どもにとって魅力のある活動」を、全ての活動の土台となるものとして捉え、しゃぼん玉、クリスマスの工作、巨大カルタ、鬼ごっここの全4回の活動を行った。その中でも、印象に残った1月の活動について報告したい。

1月は、巨大なカルタをホール一面に散らばせ、子どもたちを赤白のチームに分け、3つの対決を用意し、チームで勝利を目指すという活動「走れ！探せ！みんなで巨大カルタ」を行った。この活動は、土台である、「学生と子どもの関わりあい」に加えて、「子ども同士」でも楽しみながら自然に関わりあえるような活動をしたい、という思いで企画したものであった。どのようにしたら子ども同士を自然につなぐことができるのか、学生間でしっかり考えることができた。また、関わり合いながらも一人一人が楽しめるルールを意識して企画をした。その結果、活動本番では、知らない子と同じチームになっても、カルタで楽しみながら抵抗なく関わり合う姿、友達がカルタをとったことやチームの勝利を一緒に喜ぶ姿、作戦タイムで答えを話し合う姿など、様々な場面で、子ども同士が自然と関わりあっている姿を見ることができた。そして、企画した3つの対決においても、真剣に答えを考え、夢中になってカルタを探す様子もみることができ、とても印象に残る活動となった。

ホールの活動には、90分間という短い時間の中で、小学1年から6年生、障がいを持った子、何度も参加して慣れている子、初めて参加して緊張している子など様々な子どもたちが参加してくれる。活動を通して、その子どもたち「みんな」に「楽しんでもらう」ことの難しさを実感し、そして、これを目指すことは『居場所』につながることでありたいと考えるようになった。私にとって、「みんなが楽しい」を意識して、子どもと関わり、企画をできたことは学びの多い貴重な経験であり、このことをこれからも考え、実践していきたい。



2013年度 五福ホール班

前期班長 大隈美央
後期班長 牟田早織

居場所づくり

『居場所』とは
⇒緊張感のない、素が出せる場所

前期：学生と子どもの関わり合い
後期：子どもにとって魅力のある活動

全ての活動の土台となるもの

6月【おえかき中！～失われた色をとりもどせ！～】



7月【みんなでつくろうmyプラネタリウム】



8月【よってらっしゃい！みてらっしゃい！ これが五福の夏祭り～！】



9月【元気ハツラツ～？五福大運動会！】



10月【わくわくふわふわ しゃぼん玉きり☆】



12月【手づくりクリスマス～サンタさんをおもてなし～】



1月【走れ！探せ！みんなで巨大カルタ】



2月【走ってにげてつかまえて！
五福鬼ごっこ大作戦】



振り返り

☆様々な場面で子ども同士が関わりあっている姿を見ることができた

☆ルールを理解できなかつたり、文字を読むことができない子

⇒みんなが一緒に楽しむためには・・・

まとめ

ホールに来てくれる子どもたち
小学1～6年生、障がいを持った子ども、初めて来た子
いつも来ている子

「みんな」が楽しい
⇒ひとりひとりに合った声掛けや支援が必要

居場所

2013年度 大江託麻班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 奥平 萌菜美

前期大江託麻班では、6月に託麻公民館で『はじめてのおかいもの ミラクル☆カラフル井のまき』、8月に大江公民館で『太陽の下で遊べ遊べ遊べ！ 戦闘中他』の2つの活動を行った。

6月の活動では、お買い物と調理に親しみをもってもらいたいという願いのもと、企画を進めた。そのためには、活動の中で様々な体験をし、楽しいと思うことが親しみにつながると考えた。出来るだけ多くの体験をさせるために、役割分担をして活動を進めるのではなく、子どもひとりひとりが一連の工程を体験できるように心掛けた。また、調理で使う具材や味付けは、決められたものを提示するのではなく、選択肢を提示し、子どもが好きなものを選べる形にした。そのようにすることで自由度が高まり、子どもの興味関心を引くことができた。活動後には、「家族に作ってあげたい」「もう一度やりたい」という子どもの声を聴くことができ、お買い物・調理に親しみを持ってもらえたのではないかなと思う。

8月の活動では、楽しさを追求することによって、子どもの夏一番の思い出にしたいという願いのもと、多くの企画を盛り込んだ活動にした。アイスを作り、ペットボトルロケットを作って飛ばし、“戦闘中”をし、子どもが楽しいと思える場面を多く考えた。人それぞれで“楽しさ”が異なるため、企画段階で悩む機会も多かったが、各内容における楽しさを定義し、それを追求することに努めた。活動の最後には、子どもの“楽しさ”が切れてしまわぬように、くじ引き方式でアンケートを行った。「どのくらい楽しかったか」という項目に対して、多くの子どもが「100%」と答えてくれたため、学生も達成感を味わうことができた。

前期の活動を振り返って、学生が子どものことを考え、願いを持って追求すればするほど、子どもの笑顔が増え、学生の達成感が大きくなることを実感できた。今後も、学生同士が多くの意見を交わし合い、よりよい企画をし、様々な子どもの姿を知っていきたい。



2013年度 大江託麻班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

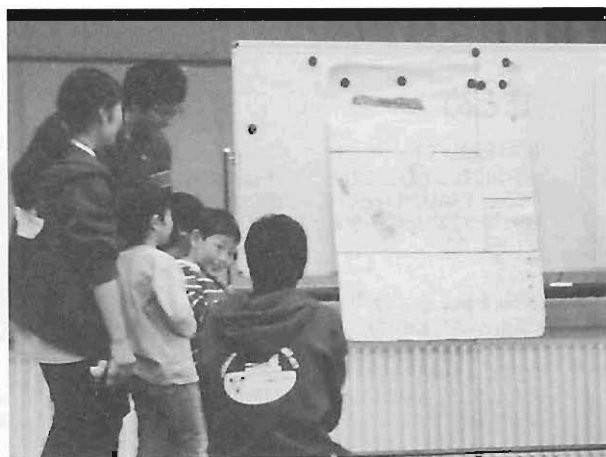
班長 2年 立山 史子

後期大江託麻班では、12月に託麻公民館で「はじめてのおかいもの～みんなでお米を変身させよう～」、2月に大江公民館で「大江ドミノ大作戦～みんなで町をつくらんと！～」の二つの活動を行った。

「はじめてのおかいもの」は、今年度で14年目をむかえる歴史のある活動である。今回は“一人一人が考えること”と“子ども同士での関わり合い”を軸として活動を企画した。お買い物は例年班で行うのだが、今回は一人で行うという形をとった。そのため、ずらりと並ぶ食材の中から、真剣なまなざしで自分の食材を選ぶ子どもの姿を見ることができた。調理は、オムライス・チャーハン・ごはんピザの中から自分たちが作る料理を決めるところから始めた。食材を切ることや炒めることを交代で行ったり、相談しながらトッピングを行ったりと、みんなで料理をする楽しさを子どもたちを感じさせることができた。活動を通して「一人」の部分と「みんなの中の一人」の部分の子どもの姿を見ることができ、新しいチャレンジができたと感じている。

大江ドミノ大作戦では、4000個のドミノを使って町の道路を作るという設定で、子どもたちが一生懸命にドミノを並べてくれた。“みんなで”達成感を味わってほしいという思いから、班ではドミノの設計図、全体ではパズルに取り組みせ、活動の中で徐々に“みんなで”の輪を広げていった。設計図を作る際には、班内でドミノをどんなふうに並べるかなどを子どもが楽しそうに話し合っていた。また、全体で行ったパズルでは、班関係なく子どもたちが関わり合いながら町の旗をつなぎあわせてくれた。活動の中で何度も何度もドミノを倒してしまい、その度に落ち込みながらも諦めずドミノを並べる子どもの姿は印象に残っている。活動の最後のドミノ倒しでは何度か止まってしまったが、全てが倒れ終わって町の旗が揚がった時に子どもと学生で一緒に味わった達成感は忘れられないものになった。

どちらの活動も班のみんなで作り上げた活動である。これからも私たちは子どものことを一生懸命に考えていける集団でありたい。



前期大江託麻班



班長 奥平 萌菜美

活動

・平成25年6月16日(日)託麻公民館
「はじめてのおかいもの
～ミラクル☆カラフル井のまき～」

・平成25年8月18日(日)大江公民館
「太陽の下で遊べ遊べ遊べ！ 戦闘中他」

「太陽の下で遊べ遊べ遊べ！ 戦闘中他」

〈対象〉

小学5、6年生(22人)

〈目的〉

楽しさを追求することによって、夏一番の思い出(充実感)にしよう

〈活動内容〉

- ・アイス作り
- ・ペットボトルロケット作り
- ・戦闘中

目的について

楽しさを追求することによって、夏一番の思い出(充実感)にしよう

楽しさとは

- ・人それぞれ異なるものである
- ・活動において前提である
- ・企画内容によって様々である

⇒各企画内容における楽しさを定義



子どもにとって、夏一番の思い出(充実感)となる

“楽しさ”

☆アイス作り

- ・班の仲を和ませる、1日の活動への期待を高めさせる

☆ペットボトルロケット作り

- ・夢中になって自分だけのペットボトルロケットを作る

☆ペットボトルロケットとばし

- ・型にはめず自由にとばす

☆戦闘中

- ・普段できない、頭脳プレー、汗をかいて体を動かす

☆アイス試食

- ・1日を振り返り、感慨にふける

一日の流れ

内容	場所
開会式	公民館(C会議室)
アイス作り	公民館(調理室)
ペットボトルロケット作り	公民館(C会議室)
～江津湖へ移動(市電・徒歩)～	
ペットボトルロケットとばし	江津湖
戦闘中	江津湖
～公民館へ移動(徒歩・市電)～	
アイス試食	公民館(調理室)
アンケート	公民館(調理室)
閉会式	公民館(調理室)

まとめ

〈1日を通して〉

・夢中になってひとつひとつの活動に取り組んでいる姿、「もう一度やりたい」という声が聞けたこと、帰り際には疲れ切っていた様子から、子どもたちに楽しんでもらえたと感じた。

〈前期を振り返って〉

・学生が子どものことを考え、願いをもって追求すればするほど、子どもの笑顔が増え、学生の達成感が大きくなることを感じた。今後も、学生同士が多くの意見を交わし合い、よりよい企画をし、様々な子どもの姿を知っていきたい。

後期大江託麻班

班長 立山 史子

大江託麻班 活動

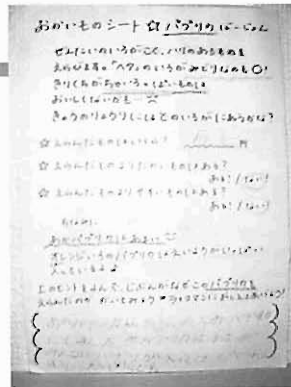
- ・12月1日 **はじめてのおかいもの**
～みんなでお米を変身させよう～
IN 託麻公民館
- ・2月9日 **大江ドミノ大作戦**
～みんなで町をつくらんと！～
IN 大江公民館

はじめてのおかいもの

- ・一人一人が考える
 - ・お買いものをしっかり経験する
⇒一連の流れを経験
 - ・子ども同士でたくさん関わりあう
 - ・料理の楽しさを知る
⇒調理過程、調理後を意識
- お買いもの
- 調理

おかいもの

おかいものシート
—



調理

子どもの見たい姿

- ・みんなで盛り付けている姿
- ・切る作業などを交代でしている姿
- ・発表会のために相談し合う姿



発表会



- ・一日の振り返りの場
- ・自分たちが考えたこと感じたことを発表する場

2013年度（平成25年度）熊本大学教育学部フレンドシップ事業 シンポジウム・分科会開催要項

日時： 2014年（平成26年）3月3日（月） 10:00～16:30

場所： 熊本大学教育学部3-B教室

[午前の部：シンポジウム]

1. 開会挨拶 10:00～10:10

熊本大学教育学部長

登田 龍彦

2. メイクフレンズ活動の実施報告 10:10～11:10

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

藤山 茉優

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「中央単発班」班長

(前期・後期) 工 藤 友 徳

メイクフレンズ「五福プランナー班」班長

(前期) 坂 崎 優 平

(後期) 坂 本 悠

メイクフレンズ「五福ホール班」班長

(前期) 大 隈 美 央

(後期) 牟 田 早 織

メイクフレンズ「大江・託麻単発班」班長

(前期) 奥 平 萌菜美

(後期) 立 山 史 子

熊本市中央公民館社会教育主事

江 川 義 友

熊本市五福公民館社会教育主事

中 川 徳 子

熊本市託麻公民館社会教育主事

魚 住 敏 彦

熊本市大江公民館社会教育主事

作 本 達 昭

3. 連携協力機関関係者からのコメント 11:10～11:20

熊本県生涯学習推進センター審議員

野 尻 絹 子

熊本県生涯学習推進センター社会教育主事

太田黒 保 宏

熊本市役所生涯学習推進課主幹

上 島 和 美

4. 特別講演 11:30～12:20

熊本県教育庁社会教育課長

福 澤 光 祐

5. 修了証授与並びに閉会挨拶 12:20～12:30

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

中 川 保 敬

6. 連携協力機関関係者との企画運営協議会 12:30～13:10
連携協力機関関係者
熊本大学教育学部教員

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会 教育学部3-A・3-B教室]

7. 学生自主企画分科会 13:15～16:30
開会挨拶 分科会実行委員長 中園知沙

【分科会設置の目的と目標】

今回の自主企画分科会の目的は「再構築」である。それぞれがこの目的を意識して分科会に臨み、様々な考えを持った仲間と刺激し合うことで考えを深めることを目指す。また、分科会で得たことを今後のメイクフレンズの活動に活かし、子ども理解を深め、今期の方針である「みんなでメイフレ」をつくり上げていくことを目標とする。

- 13:15～ 開会式
13:30～ 第一部意見交換（70分）
14:40～ 休憩（10分）
14:50～ 第二部意見交換（80分）
16:10～ 閉会式



Ⅱ. 分科会の実施報告



2013年度メイクフレンズ学生自主企画分科会

1. 目的 『再構築』

今回は、一人ひとりが自分の考えを持って分科会に臨み、分科会の場でいろいろな意見に触れることで、自分の考えを深めてほしいという願いのもと分科会を行った。この一連の流れを『再構築』という言葉で表し、今回の分科会の目的とした。

2. 分科会で取り扱うテーマについて

第1部では、分科会委員がみんなに話してほしいことを共通テーマとして設定した。テーマ「メイフレに入った理由、メイフレを続けている理由」について話すことで、自分自身を振り返り、“メイフレの一員としての自分”というものを自覚してほしいと考えた。

第2部では、みんなが「話したいこと」についてのアンケートをとり、その集計結果を分類し5つのテーマを設定した。この5つのテーマから希望調査をし、班構成を行った。なお、このアンケートでは希望調査とともに、具体的に話したいことも書いてもらった。

1班：子どもとの接し方について

これまでのメイフレの経験で、子どもと接して困ったこと・悩んだことなど

2班：目的について

活動に目的は必要なのか、目的の立て方、目的達成の基準とはなど

3班：「子ども理解」について

これまでに思った、分かった、気づいた自分なりの「子ども理解」など

4班：メイフレの意義について

社会（子ども、保護者、公民館、自分たち）にとってのメイフレとはなど

5班：学生の意識について

企画、実践、振り返りの中での学生の意識など

実施計画

1. 時間 13：15～16：30

- 13：15～ 開会式
- 13：30～ 第一部意見交換（70分）
- 14：40～ 休憩（10分）
- 14：50～ 第二部意見交換（80分）
- 16：10～ 閉会式

2. テーマ

第一部：メイフレに入った理由、メイフレを続けている理由（全班共通）

第二部

1－A班：子どもとの接し方

- 1年：池田英里子 本村 亮輔 木許 彩香
- 2年：奥平萌菜美
- 3年：峯崎奈々子
- 4年：森田 大介 古閑 彩香

1－B班：子どもとの接し方

- 1年：平部 優佳 萩島 裕士 千村侑理絵
- 2年：坂崎 優平 松井 佳菜
- 3年：久間 愛香
- 4年：有蘭 耕大

2－A班：目的について

- 1年：金子 美咲 津村 征弥 野田 雅大
- 2年：中園 知沙 立山 史子
- 3年：加隈 里始
- 4年：森 優太

2－B班：目的について

- 1年：小川 佳乃 土井 美佳 長屋 聖慰
- 2年：牟田 早織 小柳 知穂
- 3年：田中亜由美
- 4年：國吉 晃平

3-A班：「子ども理解」について

1年：東 千貴 反後彰一郎 武元 恵美
2年：藤山 茉優
3年：松本 有加
4年：奥家 沙紀 代口 成也

3-B班：「子ども理解」について

1年：浜崎あかり 末鶴 茜 薫 翠
2年：大隈 美央
3年：加藤 涼平 齊藤 李菜
4年：山口 郁彦 指宿 紗織

4班：メイフレの意義

1年：渡辺 恭平 水木 遥 舟戸 多朗
2年：吉瀬 千尋 坂本 悠
3年：安達 友美
4年：添田 翔太 奥村 優

5班：学生の意識

1年：山口菜々子 千北 由香 馬場 智弘
2年：工藤 友徳
3年：井上 大輔
4年：弓削 朋未 内田 開

(1) 班 テーマ「Xイフレに入った理由, 続けた理由」メンバー(しいば, モリぞー, セック, ギャク, オシム, ガイヤ)

名前	発言	名前	発言	名前	発言		
ギャク	Xイフレに入った理由 大学入ったらボランティアをせよって思ってたし、家族からとかも許可めらった。 また、Xイフレを見に行くと、活動の容や雰囲気良かったのび入った。 ボランティアをせよって思ってたし、教員にならなくて良かったから入った。 子どもが友達だから入った。	セック	ムービーが印象的でおもしろくアツク と思ってから入った。 続けた理由 楽しいから。友達もいい現れはし、先いとのコミュニケーションもとれよ。子どもたちと交流できることで、子どもの成長を見ることができ、うれしかった。やりがい、充実感を得た。 くQ、(年向ぶ学んだこと) Xイフレというふうなことを学べる場は	イレブン	Xイフレ以外に子どもと関わる機会があまりないから。目的の言語は合えば苦痛ではない。会場のときもイフレの意見は聞くことが多くていいから。 (Q 副利理長さんへ) (回目)の活動は(主)の一回だけだったけど、(回目)から2回目の活動をやった。途中で、(回目)の活動の変化を口和した。 途中でやめるのを嫌だったし、やめるとはなかったから。また、自分で決めていく子もXイフレ以外の外部とのつながりがあるから。	モリぞー	Xイフレ以外に子どもと関わる機会があまりないから。目的の言語は合えば苦痛ではない。会場のときもイフレの意見は聞くことが多くていいから。 (Q 副利理長さんへ) (回目)の活動は(主)の一回だけだったけど、(回目)から2回目の活動をやった。途中で、(回目)の活動の変化を口和した。 途中でやめるのを嫌だったし、やめるとはなかったから。また、自分で決めていく子もXイフレ以外の外部とのつながりがあるから。
しいば	サークルに入りたいなと思っていて、ボランティアでXイフレを知りたかった。Xイフレを見に行くと、先いたちの雰囲気がよくて楽しかったから入った。 サークルに入りたいなと思っていて、ボランティアでXイフレを知りたかった。Xイフレを見に行くと、先いたちの雰囲気がよくて楽しかったから入った。	セック	やめ理由が得になかったから。活動を通して、言語は全く覚えずにわかってきたし、(昔)の人にも恵まれた。くQ、4年間続けたこと... 毎年、場所が変って行くこと。4年の後期はあまりに忙しかったからいっひの予定。	しいば	Xイフレ以外に子どもと関わる機会があまりないから。目的の言語は合えば苦痛ではない。会場のときもイフレの意見は聞くことが多くていいから。 (Q 副利理長さんへ) (回目)の活動は(主)の一回だけだったけど、(回目)から2回目の活動をやった。途中で、(回目)の活動の変化を口和した。 途中でやめるのを嫌だったし、やめるとはなかったから。また、自分で決めていく子もXイフレ以外の外部とのつながりがあるから。		
オシム	子どもと関わりたかったし、友達も良かったから入った。	セック	サークルの他に言語は合いかどうか? と思ってたが、活動を通してその意味もわかるし、楽しいと思ってる。自分の考えや採り入れ、先いの意見も聞いて、自分の場があったり、自分と高めたいと思ってるから。 (Q 副利理長さんへ) 目的決めや言語は合いかどうか? と思ってたが、活動を通してその意味もわかるし、楽しいと思ってる。自分の考えや採り入れ、先いの意見も聞いて、自分の場があったり、自分と高めたいと思ってるから。	セック	子どもと関わりたかった。子どもの見方とかも強くなった。人間関係もいい。		
モリぞー	ホスター見たいなと思って、教員にならなくて良かったから入った。 楽しかったし、友達も良かったから入った。	セック	サークルの他に言語は合いかどうか? と思ってたが、活動を通してその意味もわかるし、楽しいと思ってる。自分の考えや採り入れ、先いの意見も聞いて、自分の場があったり、自分と高めたいと思ってるから。 (Q 副利理長さんへ) 目的決めや言語は合いかどうか? と思ってたが、活動を通してその意味もわかるし、楽しいと思ってる。自分の考えや採り入れ、先いの意見も聞いて、自分の場があったり、自分と高めたいと思ってるから。	セック	子どもと関わりたかった。子どもの見方とかも強くなった。人間関係もいい。		

(3) 班 テーマ「メイフレに入らな理由」メンバー(てんてん、とも、きよまさ、プーさん、あしん、あま、Hey!、エリー、チロル)

名前	発言	名前	発言	名前	発言	
てんてん (4年生)	<p>き、かけ → もりぞー (学科が一緒) にすすめられた。</p> <p>見学に行く... 話し合いばかりで何がもしろいの?</p> <p><u>「こんなサークル入りたくない!」</u></p> <p>But、メイフレの人(先輩)たちと話したら、<u>「案外もしろそうだなー。」</u></p> <p>↓</p> <p>よし!メイフレ入ってみよう!</p>	Hey! (1年生)	<p>入学式のMovie ← 教員志望だし 役立ちそう!!</p> <p>お花見器で、先輩たちからいろいろ話を聞いて、一緒にお花見にいたあば、やってい「入る」</p> <p>↓</p> <p>よし!メイフレ入ろう!</p> <p>ともと 教員志望で、教育学部に入学 入学式のMovie ← 子ととも学生ととも 関われる、いいな!</p> <p>↓</p> <p>よし!メイフレ入ってみよう!</p> <p>きよかけ → あっけに誘われた。 <u>新しいことに挑戦したい!!</u></p> <p>↓</p> <p>メイフレに入ってみよう!</p> <p>メイフレに入ってみて... ともとと人前で 話し合えるのが苦手だが、話し合いで その機会をもてるのは、大きい!!</p> <p>入学式 Movie で 子とともと肉付け ことを知る。あしんとお花見器へ 予定が合わずに、17月遅れで入った。</p>	きよまさ (3年生)	<p>入学式のMovie ⇒ 「いいなー。」</p> <p>ワラスの子とメイフレのお花見器へ</p> <p>ひろさんと 新井市 トークで盛り上がり 緊張がとけて、メイフレに見学へ行った。</p> <p>↓</p> <p>よし!メイフレ入ってみよう!</p> <p>入学式のMovieで 案外 効果あるのかなー?</p> <p>「思います!」</p> <p>「えうだゆー。」</p> <p>「はい!」</p> <p>「おります!」</p>	
プーさん (3年生)	<p>きよかけ → もりぞーさん(山ちゃん)に、お花見へ参加</p> <p>同じ高校の先輩(山ちゃん)に、つかまる → 地元トークをする</p> <p>見学行ったら入らないといけない 雰囲気かな? これ...</p> <p>↓</p> <p>よし!メイフレ入ってみよう!</p> <p>ちなみに... 続いている理由は、 「プーさんが女子だから!」</p>	とも (4年生)	<p>メイフレに入らな理由</p> <p>メイフレに入らな理由</p> <p>メイフレに入らな理由</p>	あしん (2年生)	<p>メイフレに入らな理由</p> <p>メイフレに入らな理由</p> <p>メイフレに入らな理由</p>	とも Hey! エリー チロル

(3) 班 テーマ「メイフレを続けている理由」メンバー(てんてん、とも、きよまさ、フーさん、ぽんしゅん、Hey!, エリ, チロル)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
きよまさ (3年生)	「では、実際にメイフレに入っていて、どうでしたか? キツイこととあっておぼろか?」	Hey!	メイフレに入っすぐの頃は... 目的は何? 支援、てなに 声かいて何? 話し合いがババババ → 行きたくない 昼休み、ワラスの友だちと昼食王と思うが 話し合いあるし... という義務感 But... 活動が終わる → メイフレを続ける理由 (続けた理由) が分かる!!	とも	話し合いが多くて嫌になる But、上々に息抜きをしてきたよ あとは、仲間とのつながりがバババを考えたら続けたいと思うよ!
てんてん (4年生)	当然あった!!! 3年のとき... バイト (週4日) ゼミ 多忙... メイフレ (班と合宿)			ぽんしゅん	話し合い自体は、そこまで嫌じゃえない。 ただ、他のことが犠牲になりすぎることば嫌だなーと思う... メイフレに入って、2年間で「辞めたい!」と思ったこともない。 強いて言えば、1年後期で「班長としたときぐらい!」
とも (4年生)	バイト以外は全てセット!!! →メイフレを2ヶ月間 お休み... 戻ってきたとき、かけは、なに?	エリ-	「むいい!」と思った。 さらに... 話す(子ども)の得意じゃないのかも... ↓ 本当は、「子ども」向いてないのかも... 「バババ! とーしよー」 「ババババババババババ」 「どうやって/何を話しますか?」 あえてガッツガッツ いかない!! チロル きよまさのショートコト	とも	メイフレでの経験は、すごく役に立つ! 実習で指導案を書く際など、 (ん? タイムテーブル) と思うことがある! 自分もメイフレに行っても 頑張りない時期があった。 辞めようかな... と思っていたときに、 後輩から「辞めなさい」と言われた。 その言葉で「よし、続けよう!」になった。
てんてん (4年生)	→戻って 1回目の活動 (ピタゴラスの台) が、本当におもしろくて楽しかったから! 1年後期で、班長を辞める → 辞めたい! But、先輩たちとご飯に行き話す。 → 結果、辞めなかった。			きよまさ	
きよまさ	話す内容が難しくすぎて 「なんでこんな話をしているの?」と思うと... バイト (休もういにくいな...) 他のメンバー (参加したいな...) 両立 難しい — 啓				
チロル	But、プランターを1年経験してみても、「これから続けたいと思う!」 単発班の2人はどう?				

第一節

(5)班 テーマ「Xイフレ」に入りに理由、つづけてい理由

「メンバー」メンバー(山ちゃん、よしー、きゅーちゃん、のっち、むーちゃん、すずりん、アズリン、505P)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
のっち	“Xイフレに入りに理由を存せたい”		せりふがいてから行こうとしよう	山ちゃん	自分も班長がっつらかった。 ごまXイフレはなごたら及盡いなきな Xイフレの人が女子(先輩後輩仲間も) 言おし合いたい(週5) [またから見たら取あかしい集団!?(笑)] いいあえとせイ中直りでき3人が女子 どほうの(年間だ)に プランナーフェンワに行きつかった ...もって子でせとイ中直りなつかった ホーローは月1子でせと関わって(おとよかつた 単発は年2回(どせ思っで)→ホーローに行こう まおあがおせしうからつた。たのしからつた!! (おは、フグンおあがおせしうからつた。 今では天竺にどりつた(おは)に天竺にど 口でへの本番に(おは)つた(笑)
よしー	他に特に入りに理由をいサークルがなから子とせと関わる系馬鹿 ↓Xイフレに入らなからなら突撃しがない 入ルアツアツしたい		→ 免強強しふい!! Xイフレに入ら子とせと関わるのか楽い と思えよう(にな)に... 子とせと関わりたかった 最終のががな感じしに(よとせ)に(よとせ)と “1年生とせと関わりたかった(よとせ)と 思っつた?”	のっち	せめたらやまことな (Xイフレが)居場所が(な)と(な)と モサバレーヨメがああがなからつたことと 深いことが楽しいと思えよう ↓ Xイフレで思っつたことと、いふん どこぞでいふんな人(に)言おせると いいね
アズリン	お父さんのすすめ(し)か(り)し(に)サークル ↑山ちゃんのかん(ぼり)をせ 子とせとせしてつた(いな)あ...	のっち	“ちやちや(ほん)単発(よ)ね...” 単発(い)よ!! 達成感(が)すじい 自分(は)すつと(プラン)ナー(に)こ(な)だ(わ)つた(け ど、も)と(い)ろ(ん)な(声)に(行)くと(し)つ(た)か(っ た(と)思(っ)た。 — — — — — “おんな(な)ん(ど)Xイフレ(を)つ(れ)る(の)?” Xイフレ(が)つ(た)と(し)ら(な)な(っ)て(し)ま(う 期(望)は(ま)つ(ら)か(っ)た(に、や)め(た)い(と)思(っ)た。	のっち	しゅー
きゅーちゃん	昔(は)人(に)流(せ)れ(る)タイ(フ)で、友(達)が(入)る から(つ)れ(て)い(た)	のっち	“ちやちや(ほん)単発(よ)ね...” 単発(い)よ!! 達成感(が)すじい 自分(は)すつと(プラン)ナー(に)こ(な)だ(わ)つた(け ど、も)と(い)ろ(ん)な(声)に(行)くと(し)つ(た)か(っ た(と)思(っ)た。 — — — — — “おんな(な)ん(ど)Xイフレ(を)つ(れ)る(の)?” Xイフレ(が)つ(た)と(し)ら(な)な(っ)て(し)ま(う 期(望)は(ま)つ(ら)か(っ)た(に、や)め(た)い(と)思(っ)た。	のっち	のっち
山ちゃん	... 自(ら)の(居)場(所)が(し)か(ん)の(か)は(い)...	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...
アズリン	子とせもか女子 → 子とせと関わりたい	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...
すずりん	もももは(は)Xイフレ(に)入(り)た(か)つた。 ↓ 2年生からしかできない	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...	アズリン	は(い)わ(せ)は(ア)ン(ナ)ー(に)行(く)ま(っ)た(に ど(も)い(と)を(か)し(せ)う(ご)う(な)か(ら)...
よしー	同じフレンドがサークルだから代り のか(な)ー(と)思(っ)た	のっち	“ちやちや(ほん)単発(よ)ね...” 単発(い)よ!! 達成感(が)すじい 自分(は)すつと(プラン)ナー(に)こ(な)だ(わ)つた(け ど、も)と(い)ろ(ん)な(声)に(行)くと(し)つ(た)か(っ た(と)思(っ)た。 — — — — — “おんな(な)ん(ど)Xイフレ(を)つ(れ)る(の)?” Xイフレ(が)つ(た)と(し)ら(な)な(っ)て(し)ま(う 期(望)は(ま)つ(ら)か(っ)た(に、や)め(た)い(と)思(っ)た。	のっち	のっち
山ちゃん	子とせとあそびたいから 遊(び)育(成)習(得)ど(し)か(子)と(せ)と(関)わ(れ)な(い)よ!! Xイフレ(の)決(ま)り(文)句(笑)	山ちゃん	“ちやちや(ほん)単発(よ)ね...” 単発(い)よ!! 達成感(が)すじい 自分(は)すつと(プラン)ナー(に)こ(な)だ(わ)つた(け ど、も)と(い)ろ(ん)な(声)に(行)くと(し)つ(た)か(っ た(と)思(っ)た。 — — — — — “おんな(な)ん(ど)Xイフレ(を)つ(れ)る(の)?” Xイフレ(が)つ(た)と(し)ら(な)な(っ)て(し)ま(う 期(望)は(ま)つ(ら)か(っ)た(に、や)め(た)い(と)思(っ)た。	のっち	のっち
きゅーちゃん	ももも1年生のこの2つのサークルに 入(っ)て(い)た(に)だ(て、1、2回(し)か(行)っ(て)い(い バイト(も)し(て)な(っ)た → このま(ま)じ(や)将(来)語(を)考(え)る(思)い(し)ぬ(か [何(と)い(ふ)や(ば)い(い)]	山ちゃん	“ちやちや(ほん)単発(よ)ね...” 単発(い)よ!! 達成感(が)すじい 自分(は)すつと(プラン)ナー(に)こ(な)だ(わ)つた(け ど、も)と(い)ろ(ん)な(声)に(行)くと(し)つ(た)か(っ た(と)思(っ)た。 — — — — — “おんな(な)ん(ど)Xイフレ(を)つ(れ)る(の)?” Xイフレ(が)つ(た)と(し)ら(な)な(っ)て(し)ま(う 期(望)は(ま)つ(ら)か(っ)た(に、や)め(た)い(と)思(っ)た。	のっち	のっち

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ともぞう	《マイケルだからこそ》 、子どもを捧げるより 発音が楽しい	もった	、 <u>マイケルの良さ</u> 一生懸命に根本を考えたよと } 楽しかった... } 目的とか... 企画以外では マイケルは居場所が "言葉の豊か"さを 、マイケルの未来... 外部の人との連携が"多く"なよ ⇒マイケルの良さを大事に してほしい		
ゆいさー	、子どもに目的をもって捧げる ⇒ マイケルだけじゃなく				
もった	、子どもにあっては発音が自然に できるよ(=「ほっこり」) → マイケルだけじゃなくその成長				
ゆいさー	、(はじめのつかいもの 自習の発音をしてもいい?) 自習ができるといいよ(=気がなす)				
(ぼろ)	、夏キャンプでの経験 ♪ 発音物入れから発音練習はいい!				
	「ほっこり」 目的に当てはめていこうよ... 、子どもたちに一生懸命に「ほっこり」				
とぞん	、(ホールのよさ) マイケルだけじゃなくその場 "みんなが楽しい"にやりがい アングラーとコラボしても おもしろいよ! → 子どもの発音を和らげる				

名前	発言	名前	発言	名前	発言
モナ	メイフレに入った理由は?	かわせき	副班長として何ができるのか? 今まよっ意欲的に考え、行動するようになった。	かわせき	活動では、話し合いで頑張ったことが あらわれる。当日の子どもの反応が 次の活動への活かになる。悩まば分だけ 達成感がある。
たんたん	友達がメイフレに入ったから	ゆーかん	班長のとき、いい意味で先輩の意見に 苦勞した。違う視点から考えることは大層 でも、時間もかかって收拾がつかなくなる	ローサ	アランナーは何度も会えるから、 次はこいしよう! ああしよう! という原動力になる
ゆーかん	クラスで興味をもつて花見に参加した。	GON	他班説明で先輩が「もう一度考え直して、 と言われと驚いた。	かわせき	リポーターが来ると嬉しい。 新しい子も「どんな子どもたち?」と考るのも楽しい
かわせき	ムービーが楽しかった。	かわせき	話し合いの司会をするとき困った。 個人の意見を周りに広げるような 司会の進め方をしなないといけないが難しい	たんたん	先輩、同学年の優いにくれ、もっと こんな仲間と続けたいと思った。
GON	説明会に興味をもった。 お花見で先輩と話して、こんな先輩 お花見に慣れたらいいと思ったから。	かわせき	1年間楽しかった! 主目的の話は難しかった 目的の話をする、誰も聞いてくれない。 そういう人は、何を考えメイフレにいるのか? 司会のやり方が下手なのではなく、 その人自身の問題。でも、こちら側から できることはある。	モナ	メイフレはいい人が多い。仲間がいるから頑張 活動でいろんな子どもが来て楽しかった いろんな人の意見を聞くと、すばいと思う。
ローサ	友達の話聞いて興味をもったから。	ゆーかん	メイフレはいい人が多い。仲間がいるから頑張 活動でいろんな子どもが来て楽しかった いろんな人の意見を聞くと、すばいと思う。	ゆーかん	今でも、自分自身がもっと吸収できる と思う。組織的な成長を知ること できた。
ゆーかん	教育大学の友達をつくりたかった。	たんたん	メイフレはいい人が多い。仲間がいるから頑張 活動でいろんな子どもが来て楽しかった いろんな人の意見を聞くと、すばいと思う。	モナ	続けていく理由は、メイフレの良い部分 悩まばや苦勞するところは、メイフレのちよと悪い 部分
せーや	実習の前に子どもと関わりたい 子どもが苦手だったから、慣れてほきたい。	モナ	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。	せーや	悩まばがあつたら、けんぷに相談して メイフレをよよよよよよよよよよよよ!!!
モナ	友だちがしていたから。	モナ	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。		
モナ	メイフレを続けていく理由は?	GON	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。		
ゆーかん	やめた方がいい理由がない。 班長もしているときも忙しくやめたこと 思っことははない。	ゆーかん	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。		
たんたん	班長の任期が終わったあと、 達成感と燃えつき症候群	ゆーかん	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。		
GON	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。	ゆーかん	副班長としていいすばい! 今後の勉強になる を徹底していいすばい! 正解を言わなまよ いけないという雰囲気になる。 その雰囲気は少し苦手。		

(1-A)班 テーマ「子どもとの付き合い方」メンバー(もよ、エリー、牛ロル、よしお、モコニ、サヤ、セリン)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
エリー	列王全体で子ども同士をつなげる方法がわからないう。ワズとか覚えた物はいいのかな？	もよ	総体に遊ぶというだけじゃあ、あつし、かかるのしよよくないかな...	よしお	ワズ、雑学を言いたいみる。
よしお	静かな村は、ワズとかだしてみた。あはれている日時に、みんなをまきこんでみると元気になる。	サヤ	しかついで後の切りかえが大事。理由や原因もつがりにいえる。	もよ	系統活の日時の子どもとの付き合い方。学生の都合で日時間とみる日手とか。どうすればいいかわからない。
モコニ	低学年ならレクとかが遊ぶとか。	もつた	自分の中で言わない線引を作っておく。	よしお	日時間の見直しをもちせる。
セリン	奥向とさかすら、他の子に引いてみる。	もよ	学生いじりの度が高まっている時は、本人が言うのか、他の学生が言うのか。	もつた	のぼるとやり続ける。キコト方がいい。
牛ロル	ゲームとか遊ぶをしいて、子どもの中に混ぜていく。	セリン	しかるのほ最終手段。しからない方向に持っていく。	エリー	音楽をかける。
セリン	々が自慢話ほ子どもたちから聞き。	牛ロル	飽いている子どもに戻ってきてほしい(ワズ、どうすればいいかわからない。(プランナー会議にて))	もつた	言い方を工夫する。今、やっている所を上げてよ、とか。あと10分あげけん、完成させよう、とか。
よしお	初めの会って日手は？	もよ	他の班の進行状況をきく。	牛ロル	完成している子は集めよう、とかで、おわってみんなに集りを感じさせる。
エリー	うめ、いってちんかいをかける。	もよ	その子の役割と日明確にできる。自分の体そうとかしてみる。	もよ	指定する所は指定して進めてもいい。
もつた	しかるタイミングがわからないう。(学童にて)	セリン	全体的に共有する場を設ける。	セリン	終わりで集まるのしよよく、最初から集まりをすすめる。
よしお	仲間がそれとかで遊ぶと、理由をきいてみる。	サヤ	一人一人に役割を与える。やる気叩いてあげる。1回、ゲームをしてみる。ちんかいと遊ぶと入りこめる。	もつた	まずは、やってみることから。失敗は、状況、また考えてみるという。ウメ人の手は始め可む。自分の入場を確保していい。

(1-B) 班 テーマ「子どもとの接し方」

メンバー (ザック(司会)、きゆう(書記)、ゾロリ、ローサ、あば、ゆっぺい、ゆーじ)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ザック	疑問や悩みについて意見を出していきましょ う！		とがある。先輩の、子どもたちの中への入り方 がスムーズですごかった。	ローサ	オローが大切。 プランナーと参加者の学年差があるときに どうやって壁をなくしたらしいのか。
きゆう	子ども同士や、学生に対してなかなか打ち解 けてくれない子への対応を知りたい。	ザック	女の子との距離感って難しいよね。	ゾロリ	6年生は1年生にあまり興味を示さないよ ね。
ゆーじ	自分が人見知りをしてしまい、それを子ども が感じ取ってしまう。	ゾロリ	それは女の子に任せていいと思う。	ゆっぺい	学生が高学年の子と仲良くなって、低学年 とうまく関わらせるのはいいと思う。
ザック	プランナーの場合、1年間を通して仲良くな るが、単発ではどうすれば良いだろう。	ゆっぺい	その子のキャラにもよるけど、好きな人の話題 で盛り上がれたからおすすぬ。	ザック	学年差は本当に難しい課題。
ゾロリ	ずっとそばにすることが大切。不安にさせな いようにする。	ザック	子どもは気分屋だから一度盛り上がった話題 に食いつかなくなることよくあるから難し い。	ゾロリ	結果、臨機応変な対応になってしまっけど、 学生側の心の余裕と強いメンタルが大事。
ザック	バカをすると子どもが笑う。子どもにとつて 安心できる相手になることが大事。	あば	男の子への接し方が難しい。男心がわからな い。	ザック	子ども同士でけんかが始まったときどうす るか。(特に低学年同士)
ゆっぺい	活動に興味をもってくれない子への対応がわ からない。	ゆーじ	男の子から女子学生への拒否感は少なそうだ けど。	あば	ペンのとり合いなど細かい言い合いならあ ったけど・・・
ローサ	他の子も見えないといけないのでずつとそばに いられない。	あば	途中から単眼な話をしてきて、女の子が聞いて 嫌がっていたが笑う対応しかできなかつた。	ゆーじ	けんかを仕掛けた子とされた子、両方に声 かけをしていて先輩の対応がすばらしかつ た。
ローサ	自分から来たいと思つて来た子じやなかつた ら興味をもたせるのは難しいかも・・・	きゆう	笑つて流していたら子どもは「言つていいこと なんだ」つて思われてしまふ。	ザック	逆に仲が良かった子たちが急にそつけなく なつたこともある。
ゾロリ	「楽しい？」とつつこんで聞いてみるとか。	あば	上手な注意の仕方がわからない。	ゾロリ	けんかしてたらまず両方を落着かせて から、原因を探るようにするのがいいと思 う。
ゆっぺい	話しかけるけれど目も合わせてくれない子に どうしていいかわからない。	きゆう	一回きりの活動の中で叱るのも勇気がいるね。		
きゆう	他の子どもと一緒にやるよう促してみたらど うか。	ザック	呼び出してみんなが見ていないところでは注意 する。		
ゆーじ	子どもとの距離感をどのようにして測るか。 自分から子どもに積極的にいくとひかれるこ	ローサ	命にかかわつたりけけけけけけけけけけけけけ 言うようにする。	ザック	色んな経験を話し合つて対応策が知たの で、せひ今後に生かしていきましょ！

(2-A)班 テーマ「目的について」メンバー(のっち、モリ子、れっきー、あつき、かゆまき、あつきー)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
かゆまき	目的の必要性 > 自由に7112、前は「7112」の深い話を するの、活動に一貫性を持たせるため、 考えたりして、楽しい、7112から7111の2112 と思っ、2111。	あつきー	大江記梅班は、学生が存に7111が話す、 活動の手段!! 中央班は、7112に「見たい」の、7111の 設定して活動内容を求める。 目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を	れっきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を
あつきー	活動を7112のために目的を立てる! 目的を決めるときに、活動のイメージを 7112すると、目的が7112や可い。 目的の考え方が7112か。 ホー → 次口と考える 単純 → 目的に7112(7111)時間内をかける ホーは7112(7111)に7112、目的 → 7112(7111)が大事に7112	れっきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を	あつきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を
のっち	7112(7111)が大事に7112 目的に7112(7111)がある プランナー → 年間目標が軸 目的は毎回深く考え7112	モリ子	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を	あつきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を
あつきー	プランナーの年間目標は7112に深く考え 大きく7112。ホーは7112(7111)の部分。 ホー → 段階を踏ま7112 プランナー → 段階を踏ま7112 単純は、目的の活動が生き来する。 7112(7111) → 達成感 7112(7111) → 達成感 7112(7111) → 達成感 7112(7111) → 達成感	れっきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を	あつきー	目的の軸を動かす → あつきーの活動 目的の軸を動かす → あつきーの活動 見たい、7111、7112、7113、7114、7115、 結局、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を 達成し、両者は同じ目的を

(2-A)班 テーマ「目的に7112

」メンバー(のっち、モリ子、あまこ、スベック、ガイヤ、かゆま、ぽこ)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
あまこ	単発は、参加費や時間をとるから うんざりしてる。もう2回。 →楽しいが、いいのはありません	のっち	学生さんとかも見てほしいのだから、 全体で「みんなもあんな感じ、と共有 → 学びを 理解	あまこ	改め、「目的、2人なんだから？」と おんなじ話せよからって。 各班、各個人で目的の位置づけが 異なるとかが、分かんない。 各自で考えろってのが大事!!
モリ子	これ2. 3の目的が子どもたちに必要なのか。 というのを考えたい。 課題意識 (子どもたちの果敢と好奇心) 目的を統一的根拠はない。 〈目的の達成基準〉 目的にもやわらかいのに、いろいろ手段を二つづける 必要がある。明確な基準は必要なのか？	あまこ	基準にあてはまらずに全2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.	あまこ	「目的、2人なんだから？」と おんなじ話せよからって。 各班、各個人で目的の位置づけが 異なるとかが、分かんない。 各自で考えろってのが大事!!
のっち	例えは「楽しい、にもしようがある → 参加費を下げたい 活動が楽しく楽しい いろんな子どもの様子があがること いろんな基準があつていいのでは？	あまこ	改め、「目的、2人なんだから？」と おんなじ話せよからって。 各班、各個人で目的の位置づけが 異なるとかが、分かんない。 各自で考えろってのが大事!!		
ガイヤ	基準を明確、固定しやすくしてあげよう。 どんな基準があるか、よく出ておいて、 班と共有し、見分けよう。	あまこ	改め、「目的、2人なんだから？」と おんなじ話せよからって。 各班、各個人で目的の位置づけが 異なるとかが、分かんない。 各自で考えろってのが大事!!		

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ちい	目的はなぜ必要なのか	どん	目的の達成基準	よーれー	見えてくるように至る目的は最近止る。前はそうでは無い目的があった。(ex 自然のささめあう)
ちい	1年のときは楽しければいい。目的のいるの必要？と思ふ。今は目的は必要だと思ふけれど皆はどうなのか？と思ふ。この話題について話した。	どん	ホール列は活動の終わりアンケートと違う。学生の主観で目的の達成を判断しているのとは。と思ふ。この話題について話した。	よーれー	目的の達成、タイムアップ
のん	目的は最初からあるもの	GON	アンケート以外のやり方は？	よーれー	目的を達成したか？しなかったか？を尋ねるから、子どものどんな姿をみたか？は目に見えやすい姿を求めろ。ぶっちゃけると学生がやりたい活動をセリたい。
GON	ただ子どももよんで遊ぶのはダメ？	おーしゃん	それは達成という視点を振り返りていてない。(ex 本真にならず見たい→こういう本質の姿を見ることができた)	ちい	目的と活動を交互に尋ねていきたい。目的を決めてから活動をせよとやら、やりたいことと
ちい	レク依頼、外部依頼はそれにある。来てくれる子ども達に目的は関係ない。	ちい	振り返るために目的を返すわけではない。活動が系属、感じるのは達成できたか？でかたがではなく、目的にとだけ述べることができたか。	GON	目的を失いに決めた。今までは活動を先に決めると活動を後進交してきて。目的は後づけのように行ったから。
ちい	目的は誰のため	のん	振り返りの機会を設けるのは自分で振り返るためではなく、子ども連に振り返りの機会を与えて、子どもに覚えほしい。目的を達成する、してほしいのは子ども。	おーしゃん	目的に合わせた活動をしたり、活動をやらせたり。目的を達成しているか？学生は自分の中で何ができるのか。
よーれー	たとえ「楽しさ」中でも楽しめようかと求めたいものが勝手に出てくる。(ex 1人ぞ工作する楽しさ、みんな遊ばせたいの楽しさ) → みたい姿が自然と目的の目的は学生のため	GON	達成したか？を尋ねる。	のん	自分が子どもに何を子どもをみたか？から目的を尋ねることもあろうし、子どもはのりたりと活動をやらせたり目的を達成しているか？学生は自分の中で何が目的を達成しているか？
ちい	目的は子どものため	おーしゃん	達成したか？を尋ねる。	おーしゃん	目的は子どもに伝えたいか？を尋ねたいか？
おーしゃん	目的は子どものため	ちい	達成したか？を尋ねる。	GON	目的は子どもに伝えたいか？を尋ねたいか？
おーしゃん	目的は子どものため	のん	達成したか？を尋ねる。	GON	目的は子どもに伝えたいか？を尋ねたいか？

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ちい	活動を主体的にしていき、目的をしっかりと アタリ活動内容と目的を交互に考えていく やり方。	おーめん	楽しくない活動はアタリないけど楽し くない子どもはいる。だからアタリでは楽しい は前提ではない。		
よっぺ	自らのやり方に活動を楽しめないと学生のモチ ベーションが下がらない。(ex 環境にアタリ考 える活動、エコーポイント)	だん	(おー) やりたいところがあっても楽しめる。 (ex ガス形式にする)		
ゆーめん	楽しい活動をアタリ上げるのは学生だから、 学生が楽しくない子どもにもアタリ楽しめ ることをアタリたい。	ちい	楽しいは作本!!		
おーめん	目的に楽しいをいれるべきか。楽しい活動を する学生の学びは変わっていく。				
おーめん	(おー) みんなが楽しめることが楽しいから今 期アタリ活動は楽しい活動をアタリ出す。 しかし、楽しいゆえにアタリ何をアタリ出す のか。				
ちい	「楽しい」が目的になるときは楽しいを前提 にしてあげたい。楽しいことを考えるとき。 「楽しい」が前提になるときは楽しい+何かを 考える。				
GON	単発で楽しいを考えるとアタリアタリでア タリは?				
おーめん	活動にアタリアタリをアタリは?				
GON	(単発) アタリアタリこの活動楽しいのか?とい うことをアタリない。大、おーの夏の活動で楽し しいと目的にしたときはアタリアタリポイント でアタリアタリ。				

(3-A)班 テーマ「子ども理解について」

「メンバー(セーヤ、おーちゃん、小しゅん、可ずりん、たんたん、中からん)」

名前	発言	名前	発言	名前	発言
可ずりん	この班では、1年間の活動を通して感じたこと、わががたにこんなことを感じたいと思ったり、わががたにこんなことを感じたいと思ったり... 「子ども理解」について考えていきたいと思ったり...	(おーちゃん)	そういう、子どもが自分たちでどうにかしている、どうやって育つんだろうって思ったり。 ① 単発 + 学童保育、くもん... etc 本当にいろいろな子どもたちがいて、子どもひとりひとりの個性を感じたり、引き出させる環境作り、って大事!	やぎ	あ、 <u>特定の子の接し方が難しくして...</u> 特定の子ども、ってどんな子? ② ホールにきてる子ども、 <u>自閉症とか...</u> あと、ADHD気味の子もおるね! けど、子どもたちの中には <u>差がないという気がして</u> いるから、 <u>まずは特別扱いしないでいいのかな</u> って思ってる。
やぎ	① ホール いろいろな子が来る → 対応が(おま、おーちゃん、特定の子ども) 難しい! ② 飽きてくるの? 活動から取り除く...	可ずりん	① ホール ほんとうに子どもがいろいろいる! だがうはを様々な対応が必要。 ex もし、活動に入りこめないうちの子どもがいたう? に対して学生の支援考えた。 → ナイフレでの学びだと思おう! ③ これって大事なことよね!!!	セーヤ	みんなさん、どうしてきてますか? 授業で特別支援について学んでないと難しくなってしまう? 学生が構えてるの、伝わってね。 その障がいがあるというもので、何が苦手とか嫌とか知るとのほ必要かもね。せめて!!
たんたん	① プランナー ずっと同じ企画のプランナーの子「どうでもいい」がロブセ女の子がいた。 → 学生に頼まなかった外はいい!! ⇒ 子ども同士でその子に開いてあげられるように支援したう、 「どうでもいい」と言わなくていいよ	おーちゃん	① プランナー の会議で、いつも1人だけうしろにのけて、やる気なに見えたりした。最初はおんなとか会議に戻さなまて!! 支援を考えたけど、たんたんをういっような子(クルド、大事なときにスバ、良いこと言う)でわかって... × 学生の差も見た目で判断しちゃダメって思った!	おーちゃん	どうしても暴れる子とかいるんですけど... ④ 隠していいんでしょうか? (仕方ないかも...) 程度にもよるよね!! (せうかし=この)障がいがある/なしにかかわらず、まず「何でそうしたか」をきくのが大事かな。 おまは怒るね!!!
セーヤ	子ども理解と可るために、 ⑤ 学生は どう振るまうべきかだううね。	中からん	これって大事なことよね!!!	やぎ	それって大事なことよね!!!
可ずりん	おーちゃんさんは単発ですかね?	おーちゃん	① プランナー 単発マスタースタッフです! ルービー(シンポジウム)にあって、たいてい、お買い物で女の子がキャバツを1人で選んでいた場合、たよね。おまは班つぎはついて行って、たよね。学生がいないとどうでの子どもの力が見れたよ	おーちゃん	それって感じたことかある、たいてい、たよね。おまは子どもの対応の仕方で悩んでるおまにたいして、どう?
おーちゃん	いよいよこの子で、子どもの力が見れたよ	可ずりん	それって感じたことかある、たいてい、たよね。おまは子どもの対応の仕方で悩んでるおまにたいして、どう?	セーヤ	それって感じたことかある、たいてい、たよね。おまは子どもの対応の仕方で悩んでるおまにたいして、どう?

{ 司底 } { 書記 }

(3-A)班 テーマ「子ども理解」について

「メンバー(セーヤ、おーちゃん、ふっしあん、たんとん、すずん、いん、中かちゃん)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ふっしあん	信頼関係、大事です。わけ、 <u>単純</u> はなかなかリピーターもない、1度きりだから、怒って <u>シラ</u> 、 <u>シラ</u> とせせくさない。(おん利根りたにないなあ)	ふっしあん	この時に楽しんでる姿が見えなくていいかと思う。(編后にふっしは!)	セーヤ	子どもの存在だった、愛史が姿が「楽しい」な感じ?
おーちゃん	その人の性格にもよるよね。	セーヤ	「楽しい」にもいろいろな形ありますね。	すずりん	ますます... <u>子ども理解</u> って何だ?!?!
セーヤ	怒るのもコミュニケーションの1つよね。	ふっしあん	「子ども理解」意識はしてほしいです。自分なりの「子ども理解」を見つけてほしい!	セーヤ	とりにものない話だったよね。(子どもの様の方、目的、楽しい...etc)
すずりん	<u>いん</u> はどくしてるの? それ聞きたい!	セーヤ	みんな子どものどんな姿見えてる? 活動中何を意識してる??	おーちゃん	自分が参加してない活動の子どもを知らうとする今の時間も、「子ども理解」ではないでしようか! 凸
やぎ	いや、セーヤさんが先に怒ってます(笑)	すずりん	表情とかでですかね。活動から外れる子の対応を考えると「子ども理解」にならざるなって思いました。	ふっしあん	自分が参加してない活動の子どもを知らうとする今の時間も、「子ども理解」ではないでしようか! 凸
ふっしあん	切り替える大事ですよ!	おーちゃん	目的とか実際、学生のエゴ? 押しつけたり? 学生から見ると子どもの姿でしかない	すずりん	こういう時間? 姿勢も大切にしてほしいですね。
たんとん	怒っても、そのおとまた輪に入らせてあげたり。真剣な話をしている時は <u>正面</u> で向きあいて、寄り添うように聞いてあげると時は <u>横</u> にいるほうがいい、てまいたに必要ですよ!	ふっしあん	「意図」をもつて開くって何が教育だ。凸 by 山本ひよし	おーちゃん	
たんとん	学生のサポートの仕方考えまます。子どもは、 <u>子ども理解</u> する上で子どもが来いって思う姿をあげたわけ、どういふこと?	セーヤ	意図がなかったら、子ども理解し方としないってことでは?	ふっしあん	
おーちゃん	<u>楽しい</u> 、っていうのが「子どもの活動」を思うんですけど、「楽しい」って何でしよう? 活動おわって「あーっ」とか、「あ、来い来た」って思うのも、「楽しい」だと思えます!	やぎ	活動中は「楽しい」しか考えないです。自分も楽しんでることも大事だよね	ふっしあん	
おーちゃん	単純でおーちゃんを考えたよね!!	たんとん	<u>中央班の活動</u> (2月)で、自分が楽しんでること、 <u>中央班の雰囲気</u> も盛り上げて、みんな楽しんでるに参加してくれた。	おーちゃん	

(3-B)班 テーマ「子ども理解について」

④

「メンバー(まよまよ、山ちゃん、いぶ、じり、まみお、ちやや、みかん、つりん)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
まよまよ	「子ども理解」とは何なのか、エピソードを思い出して考えていく。	まよまよ	その子どもは何をしようとしたのかという、子どもの心理を考慮すること、その子一人では出来ない(公民館には他の子ども活動に参加している)ということも踏まえること、そして僕たちがどうしたいか(目的等)を伝える必要がある。	ちやや	子どもが本心で言っているか、口だけで言っているか、知らないうちにある。→子どもの気持ちを読み取る！
じり	ドミの活動で、1年生があまりのぬりにまなかつた。私は無理強いでせなかつたが、他の小学生は、その子にドミをやるようにうながしていた。	まみお	僕たちがどうしたいか(目的等)を伝える必要がある。	まみお	子どもの数だけ子どもの気持ちを考えて、→何度もくり返し、この支援があつていかなければ考えることが大切。
みかん	→ 私の対応、で間違ってた？	いぶ	「次のエピソード」前期の活動で、活動中最後まで楽しんでたという子がいた。また、後輩にも同じような子がいたが、その子はなぜか2回目も参加してくれていた。	いぶ	その時にやって、言葉かけがかわってくる。そのことを考えていくことが「子ども理解」はピタゴラの時、想像してた子どもの姿とは違い、より創造性にあつた姿が見え、おもしろいよと思つた。
いぶ	目的は学生の都合であつて、子どもが楽しいければ、目的達成でも良いのでは？	みかん	「次、エピソード」前期の活動で、活動中最後まで楽しんでたという子がいた。また、後輩にも同じような子がいたが、その子はなぜか2回目も参加してくれていた。	じり	ドミの際もそのような姿が見られた。声かけだけでなく、子どもの姿を離れて観察することで、見えてくるものもある。
山ちゃん	→ 目的はエゴ、このことを言出したらギンがない。泣いているなら無理はさせないけれど、一人がアガマしたら困る時もあるのだ。支援方法を私はいくつか試す。裏方の学生は、班付と違って、班の子の様子をずっと見ているわけじゃないの。声かけが変わってくるのは当然。やべ、この活動に来てくれるのだからこの活動をやらせてもらえるように支援しない。何も行動を起さないと褒められない。	まよまよ	判断が難しい。突然な子が来たら困る。自然な子と関わりながら学んだことは自然に慣れる子が多から最初から焦らない事が大切。	まよまよ	子どもが関わっていないところ(家で学校)もみられたらみてみるべきではないか。ここでそれぞれ、子ども理解についてまとめてみよう！
		つりん、山ちゃん	「初めて来た子に関わりすぎて自分来る子どもが話しかけて来るようになる。これは信頼関係が築けるのでは？これはすごいこと！」		みんなの言葉をまとめること、子ども理解とは、「色んな子どもに関わる中で経験を積み、1人1人学生がやれることを様々なパターンで活かす。つり、子ども一人に対する支援法を目的別に
		ちやや	他の子に言いないうことがあった。		築いていくことである。

(5)班 テーマ「学生の意識 (企画・実践・振り返り) 」メンバー(ばる、イレブン、サウザー、ともぞう (司会)、バボ、とも、かい)

名前	発言	名前	発言	名前	発言
ばる	<p><企画で意識していることは?></p> <p>○プランナーなので、まずは年間目標に合っているのかを意識する。そしてその活動を行うことで子どもにもどのような影響があるのかを自分なりに考える。</p>	ともぞう	<p>○話し合いの雰囲気をよくするように心がけている。</p> <p>→グループで話し合いをするなどの工夫をしなければならない。</p> <p>○会議→子どもの考えを大切に、子ども自身が考え合うようにしている。</p>	かい	<p>○班長の経験から学生全体の動きを見るようになった。</p> <p>○学生全員が子どもと関わる機会がもてるようにしている。</p>
イレブン	<p>○目的と照らし合わせながら活動を考える。考え過ぎたら分からなくなるので、なるべく思い付いたことは伝えようとしている。</p>	ばる	<p><活動で意識していることは?></p> <p>○会議→子どもの考えを大切に、子ども自身が考え合うようにしている。</p>	ばる	<p><振り返りで意識していることは?></p> <p>○プランナーの子どもの変化を振り返っている。自分たちの支援によって変わったのかの判断が難しい…。</p>
サウザー	<p>○どうしたら子どもが楽しいのかを考えている。</p>	イレブン	<p>○最近は裏方が多いので全体の動きが見られるように心がけている。</p> <p>○子どもの様子はメモをとるようにして、反省会や次の活動に活かすようにしている。</p>	イレブン	<p>○振り返りシートの良いかったこと、悪かったことの理由まで考えるようにしている。</p>
バボ	<p>○みんなの意見を聞く姿勢を大切にしている。自分の考えを言う時に「○○さんに似ていて」とかを意識して使うと、みんなの話を聞けるようになったし、話し合いが楽しくなった!</p>	サウザー	<p>○初めて来る子を気にかけている。みんな楽しい雰囲気を作るために学生も笑顔でいることが大切だと思う!</p>	サウザー	<p>○主観的に見るだけじゃなくて客観的に見ることも必要だと思う。</p>
とも	<p>○メイフレだからそこそこの活動を重視している。学生自身が楽しく話し合っているような雰囲気作りが大切。</p>	とも	<p>○子どもの安全が第一。子どもと関わりは目的と照らし合わせて声かけなどを考えているが、楽しく、気持ちよく帰って欲しいので怒りすぎないようにしている。</p>	とも	<p>○子どもとのエピソードをたくさん出せるようにしている。</p> <p>○改善策まで考えるようにしている。良いところまで言い合うことでモチベーションUP!</p>
かい	<p>○ホール班の場合、「居場所作り」を意識している。→1年間を通してそのような雰囲気が作れたんじゃないかな。</p> <p>○さまざまな子が来るから、対応を考えながら話し合いに臨んでいる。</p>	バボ	<p>○子ども同士をいかにつかないで仲良く関わってもらうかを意識している。友達をいっぱい作って帰って欲しい!</p>	かい	<p>○子どもの話をなるべく共有するようにしている。</p> <p>○企画段階 (話し合い) まで振り返り、目的の決め方などももう一度考え合うことで次につながるのでは。</p>

合同分科会の事後アンケート

【第1部】

○自分自身を振り返り、みんなで話すことで何か得たこと、変わったことはありましたか？

〈1班〉

- ・何となくメイフレを続けているような気がしていたが、分科会で自分の思っていることを話したり、他の人の話を聞いて共感したりして、メイフレにいる意味に気付けた
- ・みんないろんな意見や考え、悩みを持ちながら頑張っているんだなぁと思った
- ・やっぱりメイフレに所属している人はみんないい人ばかりだなと再確認した。でも、だからこそ、人に頼りすぎてしまうところがあると思うのでそこを改善したい
- ・私はやっぱりテキトーだなと思った。けど、それを受け入れてくれるメイフレの人がいるから続けているんだと実感した
- ・みんなそれぞれメイフレに対して違った出会いをしていて、理由はいくつかあるがメイフレの雰囲気が好きということが分かった
- ・自分がここまで続けていられるのは、メイフレの人間関係ができているからだと感じた
- ・自分がメイフレに入ってどのような成果があったのか、再確認することができた。また4年間の反省も行うことができた。今の1年生がどのようにしてメイフレに関わっているかも少しわかり、次の分科会のテーマにつなげられると考える

〈2班〉

- ・先輩が今まで続けてきた理由や辞めなくなった時の話を聞いて、自分の1年間は責任が軽かったからから、ただ楽しいだけだったのかなと思った
- ・統括や班長というみんなをまとめる役は、自分が思っていた以上に大変であり、先輩たちも随分苦しんでいた。自分も頑張ろうと感じた
- ・“自分が一番つらい”と思ったらダメだという言葉が心に響いた。メイフレのクルーの居心地について少し考えることができた
- ・今まで様々な活動をしてきて自分の考えを再確認できたり、先輩方の話を聞いて先輩になったら立ち位置を考えなければならぬと思った
- ・1・2年生の頃の気持ち（ひたすら楽しかった、悩んだ）を思い出して、先輩もそういうことあったんだと分かり安心した。学年が変わるこの時期に続けたいと思う理由、辞めたくなくなってしまう理由をみんなで話すことが出来てよかった
- ・自分自身が入った理由は他の人よりもしっかりしたものではなかった。色々話し合いや企画班の班長をやっていく中で、“何でこんなことしているのだろう”と思うこともあった。しかし、先輩方の話を聞いて、同じような経験をしてこられているのだと思い、少し安心した。ありがたいお言葉をいただき、これからにつながると思う

〈3班〉

- ・メイフレに入った理由は、様々でなるほどと思ったが、メイフレで活動していて「辞めたい」まではいなくても「話し合いに行きたくない」と思うことは、誰でもあると知り共感するところがあった。自然に「義務」のようになってしまっているところも否めないかなと思った
- ・他の人も同じような悩みを抱えていて、その中でも活動での感動などメイフレでたくさん得るものがあるって続けていることを知り、私ももっと成長できるように頑張ろうと思った

- ・自分が悩んだことが、先輩方も思ったことがあることが知れて気持ちが軽くなったし、悩みながらもメイフレを続けていけるんだなと思えた
- ・他の人の入った理由を聞き、いろいろな視点も持てた。みんな何かしらの悩みや葛藤がある、認めていこう
- ・いろいろなメイフレに入る理由があって興味深かった、改めて仲間は大切だと思った
- ・今まで自分が思ったことを、みなさんも思っていて共感できることが多かった。子どもとの接し方について先輩方の話を聞いて、参考になった
- ・いろいろな理由でメイフレに入って、辞めたい、行きたくないと思った人もメイフレメンバーの声かけ、活動での達成感などで続けていて、知らなかったみんなの気持ちが知れて、メイフレを大切にしてほしいという思いが強くなった
- ・いろいろな経験をして、なんだかんだ続けることで得られるものもきっとある

〈4班〉

- ・4年生の先輩方の話を聞いて、これからのメイフレとも関わり方について参考になった。自分がメイフレを続けていられるのは、「子ども」だけでなく「学生」の存在もあることを再確認した
- ・何事も楽しむのが1番だということ、物事の良い面を捉えるようにしたい
- ・入った理由は適当だったが、今は得たものが多くあると思い返してみて、改めて確認することができた。やはり子どもが好きだと思った
- ・先輩方がメイフレを続けている理由を聞いて、やはり子どもとのつながりが一番だと思った。辞めようと思っても続けたらいいことある
- ・やはり「子どもが好き」という人の集団だと思って嬉しくなった。子どもが好きだという思いを大切に企画などをすることが欠かせないと思い直した
- ・始まりはなぁなぁでもどんどんメイフレの魅力にはまっていくのは、みんな同じだと思った
- ・いろんな人のメイフレ入った理由や続けている理由を聞いて、みんな意外と同じ理由が多かったので少し安心した
- ・みんな真剣に子どものことを考えていてすごいなと思った
- ・単発マスターに単発のことについて聞いた。結局「子ども、学生」がモチベーションらしい

〈5班〉

- ・意外とみんな子どもに関わりたいという自分の意志を持って入っている子が多いんだなということに気付いた。やはりみんな子どもが好きなんですね
- ・「なぜ続けているのだろう」と考えた時に、特に続けている強い理由なんて別にないなと感じた。でも、もしメイフレをやめてしまったときに、他にやりたいことがあるわけでもないし、メイフレが自分にとって“居場所”になっていたこともあって、そう考えると自然と「続けて」いるんじゃないかなと思った。久々に会ったメイフレの人もいて、改めてメイフレに入ってよかったなと思っています
- ・自分がなぜメイフレに入ったのかをもう一度考えることができ、分科会で話を聞いて、ホール班以外がどんな班で、どのような気持ちで活動していたのかを知ることができた
- ・他の人のメイフレに入ったきっかけが結構多様だったので驚きました。自分がメイフレを続けていく中で疑問に思っていること、不安なことがみんな持っていることが分かり、共有できた
- ・1年間メイフレを続けてみて辞めたいと思ったことはなかったが、班長を経験している先輩たちは思ったことがあると言っていたので、大変なんだと改めて感じた。いろんな班を経験すること

が大切だと分かった

- どんな思いでメイフレに入ったのか、班を選んだのかを話せて、メイフレの良さや、班それぞれのよさを改めて実感できた
- メイフレに入った理由は、みんなのように子どもと関わりたいからではないけれど、続けていてよかったと改めて感じる事ができた。メイフレの一員になれたと実感する事ができた1年間だった

<6班>

- ひとりひとり続けている理由をもつことができているすごいと思った
- 1年生の意識の高さに驚いた。メイフレに入った理由は様々だが、今それぞれが続けていることに目的を持っているのですごいと思う。今後のメイフレも安心だ
- 1年生が結構しっかりした思いでメイフレをしているのだと思った
- 続けていく中で意識を高く持っていることが知れた。自分の中でメイフレの中にいることが大学生活の中で大きなことだと思った
- メイフレの存在を再認識する事ができた。プランナー、単発、ホールそれぞれに良いこと（子ども理解について）があることが分かった
- みんなで考えたり話し合ったりするところは、メイフレの魅力の一つでもあり、自分の考えの浅さやふがいなさに気付くことのできる大切な場でもあると改めて感じた
- メイフレに入って得たものを考えてみて、これから頑張りたいことも見つかった。同じ1年生の考えも知れたし、先輩方の過去のエピソードなども聞く事ができてよかった。自分のこととも関連付けて考え直すきっかけになった
- メイフレに入ったころの気持ち、気持ちが変化していった記憶を改めて思い出し、4年間のまとめとして整理できたことで、メイフレにいてよかったなと思えた

<7班>

- みんなの続けている理由、つまりメイフレの良いところについて知ることができた。また、メイフレをやっていくうえで悩んだこと、つまりメイフレでこれから改善すべきことも知ることができたので、良いところはそのままに、悪いところは改善していきたい
- みんなの話を聞いて、自分はどうかと比較し、自分を省みることができた
- 続けている理由をみんなから聞くことで、自分が続けている理由、メイフレのメリットを改めて感じられた
- 続けている理由を自分も考え、他の人の意見も聞く事ができて、メイフレの良さを改めて理解することができた
- 企画、実践、振り返りの中で、私は企画のときが一番大変だとかきついとか思っていたが、楽しんで自分の思ったことを言えばいいんだということが分かった
- 自分の中で思っていたことを、みんなと共有し、みんなが思ったことを聞くことで、改めて感じる事ができ、良い経験になった
- 人の話を聞いて、メイフレにいる理由が、自分の中でまとまった気がした

○これからのメイフレに対する意気込み

- メイフレの良さを感じる事ができたので、これからもがんばっていきたい
- まわりの人のことも考えながら、子どもも学生も楽しめる、成長できる活動を作りたい

- ・これから2年となり、今まで以上に忙しくなると思うが、自分の考えだけはきちんと持ちつつ、柔軟に物事をこなしていきたい
- ・今までの一年間で学んだ子どもとの関わり方を今後も活動でいかしていきたい
- ・まとめる力を身につけたい
- ・先輩らしくなりたいけど、威厳とかはいらない先輩らしくない先輩になりたい
- ・いろいろな子どもがいるので、その子どもたちと接することで、これからの接し方を考えようと思った。特に男の子との接し方を学びたい
- ・頼りになる先輩、親しまれる先輩になりたい。色々な子どもとたくさん関わる
- ・後輩ができ、また違った一年にしたい
- ・活動での子どもとの関わりや仲間との交流をモチベーションに4年生までメイフレに残る
- ・メイフレでたくさんのことを吸収したい
- ・2年生になって自分たちが主体にならなければならないので、今まで以上に責任感をもっていきたい
- ・プランナー道を貫く
- ・これからも嫌になることとか、しんどい時があると思うけど、先輩方も続けてよかったと言っていたので、そんなときもみなさんの言葉を思い出して頑張ろうと思った
- ・時間をできるだけ作って、メイフレの活動を続けていこうと思った
- ・授業も入ってくるので、少しでも力になれるように働いていきたいと思った
- ・いろんな人とのつながりを大事にして頑張りたい
- ・企画力はすごいので、本当の意味での子ども理解にもっと力を注ぎたい
- ・2年生として、貢献できるように頑張る
- ・これから忙しくてつらいときもあるだろうけど、自分ができることを精いっぱい頑張りたい
- ・新天地でも頑張る。色々なところで経験積みたい
- ・悩んだときは一人で抱えこまずに、みんなで共有して新しい班になっても頑張っていこうと思う
- ・今まで通り考えることが楽しいと思えるような話し合いをしたい
- ・前期はお休みするけれど、メイフレで経験できることはまだまだたくさんあると思うので、残りのメイフレでの時間を濃いものにしたい
- ・本当の意味での「みんなメイフレ」を作っていきたい
- ・前期はお休みしますが、後期戻ってきたときに3年間のメイフレで学んだことを還元できたらと思う
- ・これからも子どものことを一生懸命考えて、みんなでぶつかったりしながら、みんなで頑張っていける集団でありたいと思う
- ・これから、当日の活動だけでなく、企画の部分をもっと大切にしていきたい。また、今回のような根本に戻るようなことを時々したい
- ・子どもの目線にたって、企画・運営をして、子どもがどうすれば楽しんでくれるのか、また楽しいとは何かなど、具体的などころから抽象的などころまでメイフレの人と話せばいいと思う
- ・1年後期の活動で統括をさせてもらったのですが、後悔している点やリベンジしたいことがあり、2年生になったら副班長などをしてみたいと思った
- ・前期は特に、ただ参加する、ついていくというだけだったのが、後期になって少しずつ自分の考えを持つことができるようになってきたので、2年生になったら、もっと自分の意見を話すこと

を大切にしていきたい

- 後輩がこれから班長や副班長をしていくと思うので、話し合いに参加したときは、話し合いの雰囲気をよくしたりできる先輩になりたいと思った
- これまでメイフレにいて感じたことをこれからどれだけ後輩に還元できるのか分からないけど、自分なりに出来る範囲で頑張っていきたいと思う
- メイフレのメリットを改めて知ることができたので、メリット・課題を意識して取り組んでいきたい
- 自分が一年間で感じた力不足を少しでもなくしていけるように、精いっぱい頑張っていきたい
- 話し合いでも楽しい雰囲気で子どもたちのことを考えてやっていきたい。いろんなアイデアを吸収したい
- これから経験して、うまくいったこと、いかなかったことなどを活かして、よりよい活動を作り上げていきたい
- みんなにとって新たな視点を増やせるような意見が言えるようになりたい

○4年生から後輩へメッセージ

- とにかくいろいろな班を経験してください
- 途中少しだけお休みさせてもらいましたが、4年間メイフレを続けてきて本当に良かったし楽しかったです。楽しいこともつらいこともたくさんありましたが、いろいろな経験をさせてもらいました。気づけばここが自分の居場所になっていてとても安心できる大好きな場所です。みんなありがとう
- 自分がやりたいことぶつけ合うことができる仲間になってください
- メイフレのみんなで支え合って、メイフレを盛り上げてほしい
- 人と人の関わり合いによって成り立つサークルなので、ぶつかることもあるけど、今となっては全部が成長の糧になっていると本当に本当に思います。同学年のつながりが、いざという時に大きな力になります。仲間に日々感謝
- “子どものため”という思いを忘れずに、これからも企画をしてほしいと思います。班の中でぶつかることは、ある意味それだけ真剣に語っているということなので、幸せなことだと思ってがんばれ
- とりあえず楽しくやってくれたらいいと思います
- 後輩たちはしっかり考えをもって活動に臨んでいると最近の様子を見ていて思います。自分のやっていることに自信を持って、そしてやったことに過信しすぎず、さらにいいものを作ることをめざして頑張ってください
- 話し合いなどがきつかったりして、メイフレを辞めたいなと思うことがあったり、もしかしたらこれから先にあるかもしれないけど、そういった悩みを言える同級生や先輩をたくさん見つけてほしいと思います（同じ境遇にいる人と共感し合うのが一番いいよ）
- 根本的なこと（目的とは、楽しさとは何か）を、自分たちなりの言葉で一生懸命に考えられることがひとつのいいところです。また、ぶつかり合うところはあるけど、なんだかんだみんな認め合える瞬間があったり、やわらかい雰囲気があったりと、ひとりひとりの居場所になっているところが、もうひとつのいいところだと思う。今から、外部と関わる機会が増えたり、組織形態が変わるかもしれないけれど、そういう真剣な場所、人間として温かい場所だということところは、忘

れないでほしいです

【第2部】

- (1) 今回の分科会にはどんな考えを持って臨みましたか。
- (2) どんなことを話しましたか。(印象に残っていること、得たことなど)
- (3) 自分の中でどういった変化がありましたか。(これからの課題など)

1班：子どもとの接し方

(1)

- ・接し方には状況や子どもの状態によっても良い悪いがあると思うので、今回の分科会を通して接し方の案というものに触れていきたいと思って臨んだ
- ・自分の悩みに対して意見をもらうこと。また自分のこれまでの経験を少しでも話して役に立ててもらいたい
- ・自分の経験をもとに様々な意見を聞き、これからは活かそうともって臨んだ
- ・活動に興味を示してくれない子にはどんな対応をすればいいのだろうという疑問とともに、皆さんのエピソードを聞きたいと思って臨んだ
- ・今までできなかったことやエピソードを考えて臨んだ
- ・子どもとの接し方において少しでも引き出しを持っておきたいと思って臨んだ
- ・「再構築」ということがあったので、1・2年生のお悩みに答えながらも、「こういう支援もあるよね～」
「この支援はこういう子には逆効果かも」「その人のキャラによって合う対応の仕方がある」などいろいろな視点からみんなが考えられるようにしようと思って臨んだ
- ・子どもと接するときには子どもがいまこんな気持ちでいる(緊張しているとか)を考えて1人1人にできるだけ合わせて工夫しながら関わっていきたいという思いをもって臨んだ
- ・先輩方の経験から自分の疑問に対する答えや新しい考え方、方法を吸収するという意識を持って臨んだ
- ・後輩の悩みを聞こう。自分の経験で役に立ちそうなことはあるかな。とりあえず話してみよう
- ・打ち合わせ(簡単なものだが)があったので、分科会前に内容を共有できそのことについて具体的に考えることができた

(2)

- ・一緒にいる(特になにかするわけではなく)ことが子どもに安心感を与えることがある
- ・子どもとの距離感。学生が思っている距離感と子どもが学生に対して思っている距離感の食い違いは非常に難しい
- ・子どもとの打ち解け方、注意の仕方、距離感など
- ・対応の仕方をたくさん聞けたので引き出しが増えた
- ・子どもがケンカしたときどうするか
- ・活動に興味を示さず孤立している子がいたら、そばを離れずに子どもと一緒にいてあげたりすることが大切だということ
- ・班のみんなのエピソードをもとに、それぞれが思うことを話していった

- 子どもの様子を見て臨機応変に対応することが大切だと思った。そのためには学生が余裕を持たなければならないと改めて感じた
- 自分の在り方を振り返る中で、子どもとの接し方は「マネ」から入ってさまざまにオリジナル性が加わってきたことを改めて整理できた
- 新たな接し方もあったが、忘れたところもあるので、まとめを見て取り入れたいと思う
- 子ども同士のつなげ方や叱り方について、飽きている子どもへの支援、時間の区切り方について話した。叱るときには言い回し一つでも違った印象になり、うまく対応できることから、その子に合わせた声かけができればいいなと思う
- まずはいろいろなことを試してみることが大事。そこで失敗したとしてもポジティブに考え、次の方法を模索すること。活動の中でうまい人のやり方を盗みながら、自分のやり方を作っていく
- 自分が子どもと接するとき話す技
- とにかく引き出しが増えた！子どもとの接し方だったので先輩やプランナー、単発の違いの中で様々な接し方を聞いた

(3)

- 変化ではないが、改めていろんな子どもたちともっと関わっていく中で接し方についても考え、勉強していかなければならないと思う
- 子どものけんかが起こった時にどう対応するかについての話し合いが印象に残った。まず落ち着かせてから原因をさぐることが重要だと思った
- 引き出しをたくさん持っておきたい。今回の分科会で聞いた先輩方の話で、引き出しが少し増えた気がした
- 子どもの対応に正解はないのだと分かった。その子に合った臨機応変な対応ができるように引き出しをたくさん持っておきたい
- 子どもにとって、何をしなければならないのか、子どもは何をしたいのか、子どもの様子をしっかり見て、子どものことを理解して、学生が何をしたらいいのか活動の中で考え、行動できることが大切だと改めて思うことができた
- 自分の引き出しありきの対応のところもあって、固定観念にしばられている対応もあったので、他の人のスタンスを聞いて、新しい考え方に気付けた
- 子どもとの接し方は経験することが大事なので、積極的に試していこうと思った。上手い人を真似して行って引き出しを増やしていきたい
- 子どもと接しながら、一人一人の個性を見抜き、それに合った対応ができるように頑張る
- 子どもと話すこと自体は好きで、苦手意識もあまり持ったことはなかったが、話している中でも、子どもを怒らないで済むように誘導したら、タイムテーブルに沿って進められるかなども考えながら話せるようになりたい
- 経験の多さは大切なので、これからもいろいろな経験を積んでいこうと思う
- とにかくやってみることで、引き出しが増えたり、慣れたりすると感じた。悩みなどが少し解消された気がする

2班：目的について

(1)

- ・目的について、いろいろな班の考えを聞き、自分の班に活かせることを吸収したい
- ・メイフレの活動を通して、目的について考えることが多くあったので、目的について深く考えたい
- ・自分のホール班で感じたことと他の班について疑問に思っていること
- ・目的はなぜ必要なのか、学生のための目的、活動を企画するうえで軸となると思った
- ・目的を立てることが当然となっている現在、もう一度目的の根本を1年生と共に話したい
- ・このメンバーの中の目的の位置づけを知りたい
- ・目的はそもそも必要であるのか、後付だったら必要ないのでないか
- ・目的の達成基準が分からなくて、結局子どもの様子を見て、学生が主観的に達成したかどうか決めているだけではないかと考えていた
- ・目的の立て方について、毎回どんな子どもの姿が見たいかから話し合いに入るので、活動内容から入ってもいいのではないかと思った
- ・目的はなぜ必要なのか、目的をどのように立てるかについて、自分が単発・ホールと経験してきた目的が必要だと思った経験とか今まで自分がどのように目的をたてていたかなど
- ・目的の在り方

(2)

- ・各班によって、各個人によって目的の達成基準や立て方、考え方が違うこと
- ・目的は学生の願いであり、子どもの見たい姿であるということが印象に残った。活動で課題意識を持って臨むというのは、自分にとって新しい捉え方になった
- ・目的の捉え方について
- ・目的の必要性、達成基準、目的における前提、捉え方
- ・子どもたちのどんな姿が見たいか、などを考えながら目的を決めているから、子どもたちのためにもなる。話し合いなど方針になっているから、自分たちのためにもなる
- ・それぞれの班での違いが結構出たと感じた（“楽しい”とはについて）
- ・「誰のために目的があるのか」
- ・目的は、達成したかどうかではないということ
- ・目的は、学生のためだけ、最後には子どものためになるものであってほしい
- ・楽しいは目的になるか
- ・単発班では、目的が達成された、されていないをしがちになるが、ホールでは目的をそのように判断するのではなく、その目的からこのようなエピソードがあったというような目的の捉え方をしているので、そういう捉え方もあるんだと思った
- ・ホール、プランナー、単発でどのような目的を立てるのか話して、それぞれの班の色が出ていなるほどと思った
- ・目的は学生が反省するためだけにあるわけではない

(3)

- ・何か課題を見つけて、それを根拠（根本）に目的を立てると話し合いがスムーズに進むと思った

- 目的を考える上で、目的に対する意識が変わった。班内で共有することが大切だと思った
- 目的がその班ごとに違うことを知れて、これから新しい班に行くので、その班での目的を突きつめていきたい
- 各人、各班、各班長によって捉え方が違うことわかった
- 自分の中で目的について再認識できた
- 目的は、したい活動との兼ね合いで考えるのが良い
- 学生主観でいいの？と思った部分が解決した気がする。結果的に、学生のための目的になっていても、それをめざして活動することで、子どもにもプラスになると考えるようになった
- 「楽しい」一つでも、班によって捉え方が違って、人それぞれ思いも違うんだと思った。いろいろな人の話を聞いて自分の考えを深めていきたい
- 「目的は今回達成できなかった」という風になると、モチベーションが下がるけど、ホール班の目的の捉え方だと、エピソードをいうことで、そこからまた新たな話し合いが生まれるからいいなと思った。この方が充実した“振り返り”になりそう
- 3年間メイフレにいたが、プランナーのことについて知らないことがたくさんあると思った
- 各班で色々な視点があることが分かった

3班：「子ども理解」について

(1)

- 1年間メイフレの活動を振り返って学んだこと
- 「子ども理解」ってそもそも何？活動のどの部分で生きるの？という疑問
- 怒るときなど、どのように接するか
- みんな子ども理解で何を感じたか（活動で感じたこと、分かったこと）
- どんな気持ちで子どもを分かろうとしているか（学生の姿勢）
- 子どもの活動の原動力になる「楽しさ」について考えることで、子ども理解を捉えていきたいという考え
- 方針にもある「子ども理解」を今の時点で他の人々が、どのように考えているのかを知りたいという考え
- 自分の4年間を振り返って思ったこと、考えたこと
- 具体例から実践につなげたい
- 子ども理解とは何なのか、いろいろな人の意見を聞きたい
- どうしたら子どもを理解したことになるのか
- 子ども理解をする前に、学生を理解しないとダメだということ
- 最後の分科会ということで、みんなの意見を聞いて、みんなと少しでもメイフレのことについて語り合いたい。そして少しでも何か伝えて吸収できたらと思った
- 自分の中で“子ども理解”について思うところはあったけれど、よく分からない状態だったので、みなさんの話をきいて、何か進歩すればいいと思った

(2)

- 子どもの本当の楽しさ、子ども理解とか何か、子ども理解という観点から学生の立場
- エピソードから、その際どう対応すればよかったのか（具体的）

- ・「子ども理解」とは、そもそも何なのか（抽象的）
- ・学生が子どもの言動を見ているのと同時に、子どもも学生の言動を見ているということを忘れてはいけない
- ・“子ども理解”って、あまり話し合いで出てくる言葉じゃないけど、こうやって振り返ってみると、みんな自ずと“子ども理解”できてるね、と分かったこと
- ・学生が活動のためにやっていることの全てが子ども理解につながるのではないか
- ・特支の子への対応、怒り方（怒ることはコミュニケーションのひとつ）、楽しいとは？、子どもについて考えることが“子ども理解”そのものである
- ・いろいろな子どもたちとの関わりの中で、いろいろな経験をすることが子ども理解につながる
- ・「目的は学生の都合」という言葉が印象に残った
- ・子ども理解＝自分理解である。それぞれの子どもへの接し方がある。いろいろな子どもと関わって引き出しを増やす
- ・自分が子どもと接してみて「ころえでよかったのか」と思ったこと
- ・具体的なエピソードを交え、どのような対応をとっていいのか迷ったこと。その子を理解するにはどうすればいいのかということ
- ・それぞれの子ども理解にまつわるエピソードを話して意見交換
- ・「子どもにうまく対応できないのは、自分を知らないということ」という発言が印象に残った
- ・エピソードを話している中で、「楽しくなさそうにしていた子も、また次の活動に来ていた」という例が出ていて、子どもの表情だけで判断するのは難しいという話が出た。このことから、その時々によって言葉かけを変えていくことや、表情だけには表れないことも考えていく必要があるということ

(3)

- ・“子ども理解”というのは、みんなの子どもの様子などを共有して子どもの対応について自分自身の幅を広げることになるのだと分かった
- ・抽象的な話を繰り広げているようでも、「子どもの具体的な姿から答えを見つけようとする姿」こそが、“子ども理解”だという言葉をいただいた
- ・子ども一人一人を分析して、もっといろいろな支援を具体的に考えていきたい
- ・もっともっと子どもの立場、気持ちになって考えるのがすごく大切だと思った。難しい話だけではく、エピソードなどで具体的な話を周りの人に聞いてみたい
- ・「こんな大人はいやだ」って子どもが思う大人（学生）にはならない。子どもを理解しようとする姿勢（関わり方）も考えるようにしたい
- ・子どもを理解していくうえでは、自分自身を振り返ることが必要だと思った。これからも意図を持って行動していきたい
- ・「子ども理解とは何か」と方針を立てた時から考えていたが、子どもについて考えたり、こういう場で話し合う姿勢それ自体が“子ども理解”なのかと新たな考えが持てた
- ・子ども理解をするならまずは、自分理解から！という新しい考えが自分の中に取り入れられた
- ・自分らしい接し方を見つけること＝子ども理解、ということの一つ考え付いた。みんなの意見を聞いて、考え方が少し変わった
- ・失敗しても次に活かせばよいということ

- ・子どもと接していく中で、様々な接し方が必要だということ
- ・子ども理解（と、理解した上での対応）に正解はないということが分かった。自分の中での正解を探したい。そのためにいろいろな経験をしたい
- ・子どもとの関わりを通して、自分のことを知りたいと思えた
- ・自分の考え方を考え直す良いきっかけとなった
- ・いろいろと話をしていくうえで、自分なりの子ども理解というものを言葉にすることができた。その後、他の人の意見もさらにあったので、これからも考えていけたらと思う

4班：メイフレの意義

(1)

- ・学生の立場とは何か。学校や家や公民館ではなく、メイフレができることとは何か
- ・後輩たちにメイフレのすばらしさ、すごさを伝えたい
- ・自分にとってのメイフレの意義とは、人の話や意見を聞くことと子どもと関わることだと思っていた
- ・メイフレにいて企画・運営していく中で考えることは子どものことが多い。しかし、メイフレの活動には、多くの個人・団体が関わっていて、保護者さんや公民館などから見たメイフレについて
- ・メイフレを子ども、学生、親、公民館といろいろな立場から考えた
- ・4年間メイフレに所属して、今年で卒業ということで、もう一度メイフレについて考えてみたいと思っていた。そこで、メイフレとはどんなところだろうかということをもう1度考えつつ臨んだ

(2)

- ・メイフレの意義
- ・みんなにとっての、自分自身のメイフレとは
- ・子どもの望み、親の望み
- ・メイフレは学生という立場
- ・自分でやっているけれど、やらされている感があって、でも、自分からやっているという話
- ・活動に参加する子どもについて（どういう家庭、どういう性格、どういう思いで活動に来てくれるのか）
- ・自分にとってのメイフレとは
- ・メイフレで子どもと接するにあたり、どんな立場であるかについて考えることができた

(3)

- ・後輩の意見はやはり新鮮だし、懐かしい感じがした
- ・変化というか、自分以外にも似たような考えを持っている人がいたり、先輩の考えや変化を聞いて、自分も年が経つとそんな考えにもなるのかと思ったりした
- ・変化しなかった
- ・自分はまだまだ浅い上部しか考えることができていないことが分かった

- ・みんなが真剣に子どものことについて考えていることが分かった。いろいろな人にとって、メイフレに意義があるとプラスに思って活動することで、モチベーションがあがると思った
- ・これから子どもと関わりを持っていく中で、今回話したことは、ずっと考えながら子どもと向き合えないといけないと感じた
- ・自分の中で、あまり立場を考えて活動に参加することはなかったので、意図などいろいろなことを考えながら活動に臨みたい

5班：学生の意識

(1)

- ・いろいろな班の人の意識がどのように向いているのかを知ろうという考え
- ・企画、実践、振り返りで自分がどのようなことを意識しているかを思い出して臨んだ
- ・自分と違う班の人がどのように企画、活動を行っているのか知りたかった
- ・難しいテーマだったので、先輩の話が聞けたらいいと思っていた
- ・ホールでの活動のことか、あくまでも抽象的なことでの考えか、分けて考えた

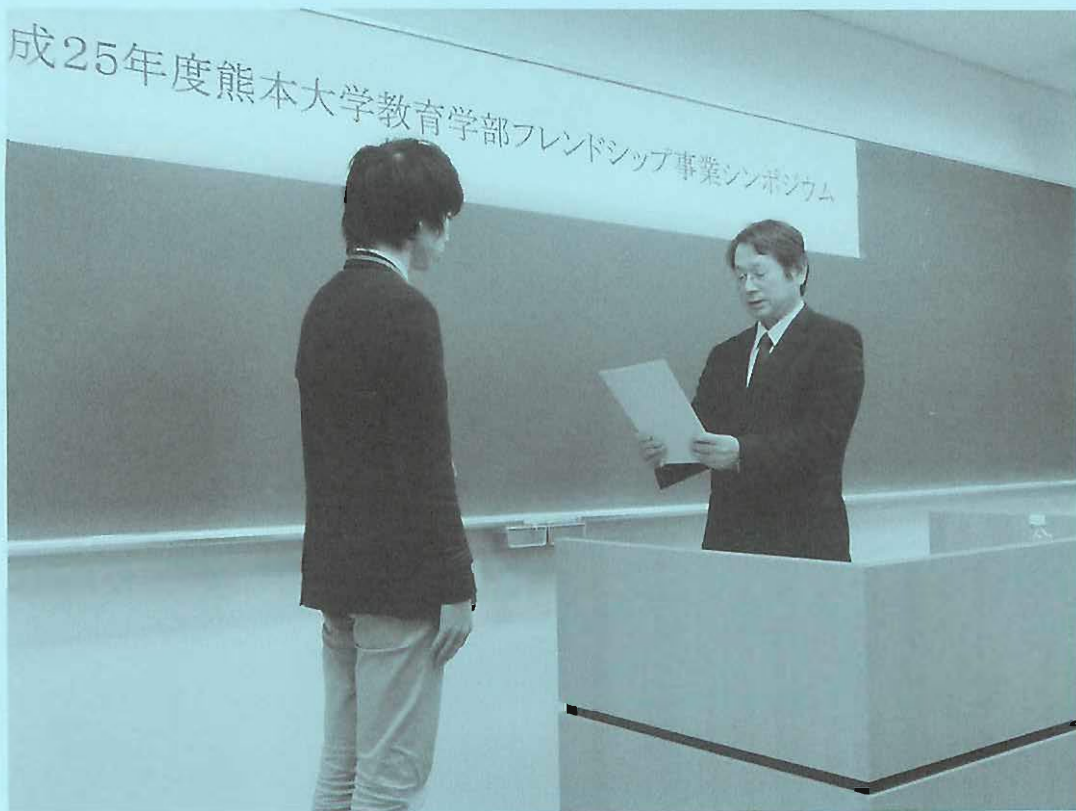
(2)

- ・活動では常に笑顔を意識
- ・企画や実践中に“どうしてこんな反応をしているのか”など「どうして、なぜ」という姿勢を常に持っていることに驚いた
- ・ホールの企画の話が印象に残った。様々な子どもへの対応が考えられていて、子ども理解を深めていることが伝わってきた
- ・企画において意識していること「メイフレでしかできないこと」
- ・企画、実践、振り返りの3つの場面においていろんな意識の仕方を聞くことができた。プランナー、単発、ホールで考え方がバラバラで面白かった。単発の振り返りをもっと活かせる場を作れたらと思った
- ・メイフレだからこそ出来る活動とは何かということ

(3)

- ・班で意識の持ち方、向け方は違うが、同じ所もあるので、もし単発だったら、ホールだったら、など考えて行動したい
- ・子どもを一番に考える。しかし、学生も楽しむことは大切
- ・これから学校現場で、子どもの様子をしっかり見て「なぜ、どうして」という姿勢をもっていきたい
- ・子どもと接する時、もっと目的意識を持とうと思った
- ・単発、ホール、プランナーそれぞれでいろいろな考えがあり、私は単発しか経験したことがないので、他班の考え方も取り入れていきたい
- ・自分はあまり企画・運営では班長・副班長ほど意識が高くなかったので、もっと考えたい
- ・メイフレだからこそできる活動とは何か考えたい（ホール班で）

Ⅲ. 教育実践総合センター教員からのメッセージ



Bon voyage ! (13年度)

教育実践総合センター 教授 吉田道雄

映像を交えたシンポジウムでの発表はとても楽しいものでした。これまで以上に、そのときどきの雰囲気伝わってきます。おかげさまで私も熊本大学を留年しないで卒業します。この34年半に亘る時間の中で、たくさんの出会いがありました。フレンドシップ事業を中山先生とご一緒にスタートしたのは1997年度のことでした。私が赴任したころはAVEC（視聴覚クラブ）があって、夏休みや学園祭で子どもたちを対象にした様々なイベントを開催していました。AVECはその名の通り、16mm映写機やスライドなどの視聴覚機器を使って子どもたちと関わりを持っていたのでした。私はその顧問をしていましたが、やがて視聴覚機器そのものがあまり使われなくなり、AVECも当初の役割を終えたとして解散しました。私としては寂しさも感じていました。そんなときに生まれたのがフレンドシップ事業だったのです。これがまたすばらしい学生の集まりになりました。そのエネルギーがついにメイクフレンズにまで成長しました。私は産業界の方々とお話しする機会がありますが、「最近の学生さんたちはどうですか」と聞かれることが少なくありません。そんなときは「私の周りにはすごい学生がたくさんいるんです」と言いながら皆さんのことを伝えます。若い部下たちとうまくコミュニケーションが取れない方もいらっしゃって、私から「いやあ、学生もなかなか大変で、いろいろ困ることもあるんです」といった話を期待されているような雰囲気が漂っているわけです。これに対して、それとはまったく反対の話をするものですから、ちょっと意外な顔をされることもあります。そこでますます調子に乗って、「結局はリーダーシップなんですよ」などとは言いません。なぜならメイクフレンズは皆さんの力で動いているのであって、私のリーダーシップなど入り込むスキもないですよ。

来年度から中山先生がリードされます。私よりエネルギッシュに動かれますから、皆さんもさらに元気が出ることでしょう。いずれにしても、「メイフレは永遠なれ!」ということです。私もそのスタートに関わることができてラッキーでした。これからも陰ながら応援を続けさせていただきます。

最後になりましたが、田中先生、正木さんとご一緒に「送別の会」をセットしていただきまして、ありがとうございました。とても楽しい時間を過ごすことができました。センターは学科と違って指導学生がいません。そんな中で、学生の皆さんから送っていただいたことは、いつまでも心に残る思い出になります。それでは、Bon voyage! これからもよい船旅を…。

平成25年度フレンドシップ事業の感想 ーパワーアップしたシンポジウムに参加してー

教育実践総合センター 教授 高原 朗 子

今年度のシンポジウムでは、始めに船長によりフレンドシップ事業の方針として「“子ども理解”と向き合う」「みんなでメイフレ」という二つが挙げられました。船長の話の中で特に印象に残ったのは“子ども理解”とはどうしたら「子どもたちを引きつける」ことができるか、「子どもの知りたい気持ちを引き出す」ことが出来るかという観点であることや、「みんなでメイフレ」の「みんな」とは、「無責任なみんな」ではなく「誰もが自分の行うことに責任を持つみんな」であるという話でした。

そして次に四公民館での実施報告が明快なスピーチと見事なパワーポイントによるプレゼンテーション等で示されました。学生達が子どもたちの喜ぶ顔を想像しながら計画をし、活動に真剣に取り組んでいる様子が例年以上にリアルに感じられる発表でした。また、子ども中心だけれども自分たちも一緒に楽しんでいるという生き生きしたエピソードが各班で出ており、飽きずに聞くことが出来ました。

公民館や県や市の先生方の講評でも、学生たちの努力を高く評価していただき、やる気を出させてくださる温かい指導をしてくださっていることがよくわかるお話をいただきました。

熊本県教育委員会福澤社会教育課長のお話も大変参考になりました。「地域の行事に参加」したり「自然の中での集団宿泊体験」したりしていることと、学力の関連性などは、フレンドシップ事業の意義につながる大変興味深い話でした。

最後に、今年は例年以上に学生たちの気持ちよい挨拶や進行の手際の良さなど全てが心地よい素晴らしい内容でした。そういった意味で今回のシンポジウムは、まさに学生の成長を見せてくれたパワーアップした報告会だったと強く思いました。

今年度のように来年度もフレンドシップ活動によって学生も子どもも安全に活動し、心身共に成長することを祈っています。

「子ども理解」とは、ということなのか？

教育実践総合センター 准教授 中山 玄 三

14年目を迎えたメイク・フレンズの問いは、とてもシンプルでした。「子ども理解」は、これまで共通のテーマとして、当たり前のように使われてきたキーワードでした。それを、敢えて、「子ども理解」とは、ということなのかという問いに対する答えを模索し、「子ども理解」と向き合うことが、今年度の問題意識であったようです。

シンポジウムでは、いくつかの答えを学生が見いだしていたようでした。まず、子どもの気持ちや行動の具体的な中味として、「子どもが知りたいという気持ち」、「子どもが心から楽しいと思えること」「子どもどうしが自然とかかわり合えるようになること」「子どもどうしが仲良くなれるようになること」「子どもみんなが一緒に楽しめること」などに、目を向けました。そして、「子ども一人一人の実態が違うため、一人一人に合わせる事が難しかったこと」「子どもの実際の姿は学生がイメージした以上のものであったこと」「目標設定では、学生の思いと一人一人の子どもの実態を踏まえることの狭間で悩んだこと」などの、様々な難しさや悩みに直面しました。その上で、「子どもをじっくりと見つめること」「推測ではなく、子どもの声を直接聞くこと」「常に、子どもを理解しようとする事」「子どものことを考え、願いをもって追究していくこと」などの大切さを実感することができたようです。

「子ども理解」という、答えが一つに決まらないような本質的な問いを立ち上げ、その問いに対する様々な答えを模索し続けようとする現在のメイク・フレンズの学生の姿の中に、14年前にメイク・フレンズを立ち上げた当時の学生の姿が重なって映って見えました。やはり、今も昔も変わらず、「子ども理解」はメイク・フレンズの永遠のテーマであるということ、改めて再認識しました。

最後に、吉田道雄先生と田中耕治先生には、メイク・フレンズの顧問として、これまで大変お世話になり、ありがとうございました。来年度からは、非力ながら、引き継がせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムに思う

教育実践総合センター 特任教授 田 中 耕 治

今年もメイクフレンズ活動の実施報告の内容、熊本県教育庁社会教育課長の特別講演には学ぶ部分がたくさんありました。

このシンポジウムには、教育学部長はじめ実践センターの全部の先生方、熊本県教育庁社会教育課からは、課長様はじめ多くの社教主事の方々、また熊本市の4公民館社教主事の方々など、そうそうたる顔ぶれの方が出席され、学生によるメイクフレンズ活動の報告を熱心に視聴されていました。学生にとってこういう機会はめったにないことだと思います。このことは、これまでの伝統とメイクフレンズ活動の内容のよさからくるものであると思います。

次にメイクフレンズ活動の内容に触れたいと思います。

いつも思うことですが、実践活動に参加している学生の多さと熱意、活動の種類が多さ、内容の多様さと深さ、子どもへの配慮…どれも感心させられるものでした。学生たちのチームワークのよさや参加した子どもの喜ぶ姿も映像の中で感じることができました。これは、日頃からそれだけ準備し、考えているからこそできるものであると思います。生涯学習実践センターの審議員の先生のコメントにもあったように、「やっていることそのもの、一緒にやっている仲間が宝物です。そして、成功したものから学ぶことも多いが、失敗や課題から学ぶことはもっと多い。そういうもろもろのことを大切にしてほしい。」と言われたことには大いに納得しました。学生諸君には、このメイクフレンズ活動で学んだことを将来に生かしてほしいと願っています。